

SigmaSystemCenter 3.6 仮想マシンサーバ(ESXi) プロビジョニング

ソリューションガイド

—第1版—

目次

1. 仮想マシンサーバ・プロビジョニング	1
1.1.1.動作環境	2
1.1.2.ESXiのネットワーク自動構成について	3
1.1.3.導入前の準備手順	5
1.1.4.SigmaSystemCenterの設定	6
1.1.5.仮想マシンサーバ・プロビジョニングの実行方法	11
1.1.6.ESXiの構成変更	12
1.1.7.注意・制限事項	13
2. ポリシーを利用した仮想マシンサーバ・プロビジョニング	15
3. 論理ネットワークを利用した仮想ネットワーク構成	19
3.1.1.管理用LANを冗長化する場合	20
3.1.2.業務用LANを冗長化する場合	22
3.1.3.管理用LANと業務用LANを冗長化する場合	24
3.1.4.業務用LANにVLAN IDを設定する場合	25
3.1.5.論理ネットワークを設定しない場合	27
4. ディスクボリュームの接続制御を利用した共有データストアの設定	29
4.1.1.ローカルディスクにインストールする場合	30
4.1.2.SANのLUNにインストールする場合	31
5. ESXi 5 およびESXi 6 自動インストール (スクリプトインストール) 用シナリオ作成	33
5.1.1.DPMのセットアップ	34
5.1.2.ESXi 5およびESXi 6のキックスタート構成ファイルの作成	35
5.1.3.ESXi 5およびESXi 6のブートパラメータファイル作成	36
5.1.4.ESXi 5およびESXi 6のboot.cfgファイル作成	37
5.1.5.DPMにOSインストールシナリオ登録	41
5.1.6.DHCPサーバ / DPMサーバ別居の場合の設定	43
6. IIS構築	46
6.1.1. IIS6の場合	47
6.1.2. IIS7以降の場合	52

本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項、および関連情報を以下のように表記します。

注: は、機能、操作、および設定に関する注意事項、警告事項、および補足事項です。

関連情報: は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角かっこ	画面に表示される項目 (テキストボックス、チェックボックス、タブなど) の前後	[マシン名] テキストボックスにマシン名を入力します。 [すべて] チェックボックス
「 」 かぎかっこ	画面名 (ダイアログボックス、ウィンドウなど)、他のマニュアル名の前後	「設定」ウィンドウ 「インストールガイド」
コマンドライン中の [] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。	add [/a] Gr1
モノスペースフォント (courier)	コマンドライン、システムからの出力 (メッセージ、プロンプトなど)	以下のコマンドを実行してください。 replace Gr1
モノスペースフォント斜体 (courier)	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目 値の中にスペースが含まれる場合は " " (二重引用符) で値を囲んでください。	add <i>GroupName</i> InstallPath=" <i>Install Path</i> "

参照マニュアル一覧

ご使用のSigmaSystemCenterのバージョンに従い、以下のマニュアルを合わせてご参照ください。
本ドキュメントでは、参照個所として最新ドキュメントでの章番号を記載しております。

バージョン	マニュアル名
SigmaSystemCenter 3.6	SigmaSystemCenter 3.6 コンフィグレーションガイド 第1版
	SigmaSystemCenter 3.6 リファレンスガイド 第1版
	SigmaSystemCenter 3.6 リファレンスガイド データ編 第1版
	SigmaSystemCenter 3.6 リファレンスガイド 注意事項、トラブルシューティング編 第1版

1. 仮想マシンサーバ・プロビジョニング

本章では、仮想マシンサーバ・プロビジョニングについて、具体的な処理内容や設定方法を説明します。

注: 本ソリューションガイドは、VMware ESXi が対象です。

仮想マシンサーバ・プロビジョニングでは、VMware ESXi のインストールとインストール後の設定を自動化し、仮想マシンの作成や Migration (SAN 構築時) が可能な状態までセットアップします。インストールオペレーションの自動化は、システム構築時に多数のサーバにインストールする際や、ESXi に障害が発生した場合の復旧に有効です。

以下に、仮想マシンサーバ・プロビジョニングの際に、SigmaSystemCenter が自動で行う処理の流れを説明します。

1. VMware 社のスクリプトインストール機能を利用した ESXi のインストール

スクリプトインストールを実行するシナリオを配布することで ESXi をインストールします。また、インストール時の OS 固有情報 (ホスト名、IP アドレスなど) は、ホスト設定に従って自動で設定されます。

注: スクリプトインストールでは、スクリプトに記述している設定内容に従って自動的にインストールが行われます。

ハードディスク (iSCSI、SAN を含む) の追加、ネットワークアダプタの追加などハードウェア構成の変更を行った場合は、ESXi のデバイスを認識する順番が変わる場合があります。そのため、ハードウェア構成を変更する前のスクリプトを使ってスクリプトインストールを行うと、インストールが正しく行われずに意図しないディスクに対して、ESXi がインストールされることで、既に存在するディスク領域が誤ってフォーマットされ、ディスク上の仮想マシンが削除される場合があります。

ハードウェア構成を変更した場合は、必ずスクリプトを再作成してください。

2. ESXi を vCenter Server へ登録

vCenter Server 環境の場合、インストールした ESXi を、vCenter Server のインベントリに登録を行います。

3. ESXi のネットワークの自動構成

インストールした ESXi に対して、VMotion の有効化、仮想ネットワークスイッチ、および仮想ポートグループの作成を行います。

詳細については「1.1.2 ESXi のネットワーク自動構成について」を参照してください。

1.1.1. 動作環境

仮想マシンサーバ・プロビジョニングは、以下をサポートしています。

ソフトウェア	VMware ESXi 5.0、5.1、5.5、6.0、6.5
--------	---------------------------------

ESXi のインストール時に Outbox ドライバが必要となるハードウェアに対しては、SigmaSystemCenter による ESXi の自動インストール（仮想マシンサーバ・プロビジョニング）機能はサポートしていません。

vSphere 5 Outbox ドライバ対応状況については、以下の URL を参照してください。

<http://www.nec.co.jp/vmware/vs5/driver.html>

vSphere 6 Outbox ドライバ対応状況については、以下の URL を参照してください。

<http://www.nec.co.jp/vmware/vs6/driver.html>

SigmaSystemCenter の最新の動作環境については、以下の URL を参照してください。

<http://jpn.nec.com/websam/sigmasystemcenter/dousa.html>

1.1.2. ESXi のネットワーク自動構成について

仮想マシンサーバのプロビジョニングでは ESXi の管理用ネットワークと仮想マシン用ネットワークを自動構成します。

仮想マシン用のネットワークについては論理ネットワークを利用して構成を設定します。詳細は「3 論理ネットワークを利用した仮想ネットワーク構成」を参照してください。

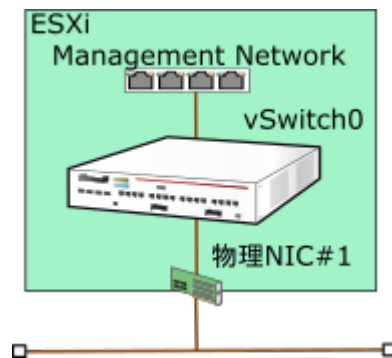
管理用ネットワーク (Management Network) については、以下のネットワークが自動で構成されます。

VMKernel については、ホスト設定の [ネットワーク] タブに設定した情報に従って、ネットワークが自動で構成します。

以下の構成からネットワーク構成を変更する場合は、仮想マシンサーバ・プロビジョニング後に手動で設定してください。

◆ 管理用ネットワーク (Management Network)

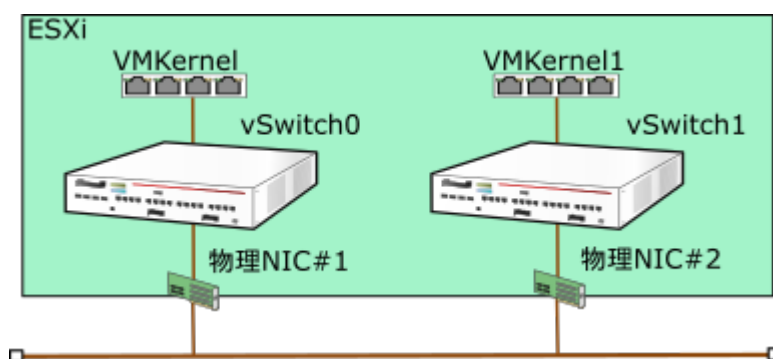
- スクリプトインストールに使用した物理 NIC に接続する仮想スイッチ "vSwitch0"、および管理用ネットワークがスクリプトインストール時に自動で作成されます。



◆ VMKernel

[ネットワーク] タブに設定したネットワーク情報 (NIC#1 の 1 番目以外) ごとに仮想スイッチ、および VMKernel を作成します。物理 NIC に対して複数のネットワーク情報が設定されている場合は、仮想スイッチ上に複数の VMKernel が作成されます。

複数の VMKernel が存在する場合は、設定したネットワーク情報の NIC 番号の小さい番号を優先し、そのネットワーク情報に一致する VMKernel を vMotion に用います。ただし、ネットワーク情報を設定しなければ、VMKernel は作成されず、Management Network (ESXi インストール時に作成されます) を vMotion に用います。



Management Network に割り当てる IP アドレスは、ホスト設定の [ネットワーク] タブで NIC#1 の 1 番目に指定します。指定方法については、「1.1.4 SigmaSystemCenter の設定」の手順 7 を参照してください。

注:

- ・ 物理 NIC、および仮想 NIC の冗長化設定を行う場合は、「3 論理ネットワークを利用した仮想ネットワーク構成」を参照してください。
- ・ 作成する仮想スイッチ名は固定値です。変更する場合はスクリプトインストール後、個別に手動で設定してください。
- ・ 仮想マシンサーバ・プロビジョニングで使用するマシンが、2 枚以上の物理 NIC を備えている場合、あらかじめマシンプロパティ設定の [ネットワーク] タブにおいて、各 NIC と MAC アドレスの対応を登録しておいてください。登録されていない場合、意図する番号とは異なる NIC 上にネットワークが構成される可能性があります。[ネットワーク] タブの設定の詳細については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「4.10.2 [ネットワーク] タブを設定するには」を参照してください。

1.1.3. 導入前の準備手順

1. マシンを DPM に登録する

仮想マシンサーバ・プロビジョニングで使用するマシンを DPM に登録してください。
使用するすべてのマシンは、DPM に登録されている必要があります。

関連情報: マシンを DPM に登録する方法については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「3.7. DeploymentManager を利用するための設定を行う」を参照してください。

2. キックスタート構成ファイル、および自動インストール用シナリオを作成する

注:

- ・ キックスタート構成ファイルは、ESXi のバージョンごとにコマンド形式、およびサポートしているコマンドが異なるため、互換性はありません。
 - ・ キックスタート構成ファイルについては、「5 ESXi 5 および ESXi 6 自動インストール (スクリプトインストール) 用シナリオ作成」もあわせて参照してください。
-

VMware 社発行のマニュアルを参照して設定ファイル (キックスタート構成ファイル) を作成します。

また、共有ストレージ (SAN など) を接続する場合は、インストールするディスクのみを接続する設定を推奨します。詳細については、「4 ディスクボリュームの接続制御を利用した共有データストアの設定」を参照してください。

次に、DPM で ESXi のクリアインストール (スクリプトインストール) シナリオを作成します。詳細な作成手順については、「5 ESXi 5 および ESXi 6 自動インストール (スクリプトインストール) 用シナリオ作成」を参照してください。

1.1.4. SigmaSystemCenter の設定

仮想マシンサーバ・プロビジョニングを行うには、仮想マシンサーバ用のグループを作成する必要があります。以下の手順に従って作成してください。

関連情報: グループプロパティ設定、モデルプロパティ設定、ホスト設定の設定方法については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「5. 運用グループを作成する」を参照してください。

また、仮想マシンサーバ用のグループに登録するマシンは、以下の設定を推奨します。

- ・ 同一ストレージを使用している (同一 LUN (Logical Unit Number) を共有している)
 - ・ 同一セグメントに接続している
 - ・ OOB による BMC 経由での電源制御が可能となっている (詳細は、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「3.10. Out-of-Band (OOB) Managementを利用するための事前設定を行う」、および「4.10.6 [アカウント情報] タブを設定するには」を参照してください。)
-

概略手順

1. 仮想マシンサーバ用のグループを作成します
2. ホストプロファイルを設定します
3. 仮想ネットワークを設定します
4. DataCenter を設定します
5. ホストを作成します
6. ストレージを設定します
7. ネットワークを設定します
8. パスワードを設定します
9. スクリプトインストールのシナリオを登録します
10. ポリシーを設定します
11. その他の項目を設定します

1. 仮想マシンサーバ用のグループを作成します。
グループのマシン種別は [VM サーバ]、OS 種別は [Linux] を選択してください。
2. ホストプロファイルを設定します。
グループプロパティ設定の [ホストプロファイル] タブから各項目を入力してください。ホストプロファイルは、グループプロパティ設定の他にモデルプロパティ設定、ホスト設定でも設定できます。管理者パスワードは、ホスト設定の [全般] タブにも設定できます。
管理者パスワードの設定は必須です。OS 名の設定は必要ありません。その他の項目は任意です。

注: vCenter Server にはホスト名で登録されます。そのため、ドメインサフィックスを設定した場合、ホスト名 + ドメインサフィックス (FQDN 形式)、ドメインサフィックスを設定しない場合、ホスト名で名前解決ができる必要があります。

vCenter Server をインストールしたマシンが設定した FQDN / ホスト名を名前解決できるか確認してください。

ライセンスを設定してください。設定しない場合は、キックスタート構成ファイルに記載するライセンスが適用されます。キックスタート構成ファイルにもライセンスの設定がない場合は、評価モードで vCenter Server に登録されます。

ESXi 5.0.x の場合は、キックスタート構成ファイルにライセンスを記載することはできません。

3. ネットワークを設定します。
グループプロパティ設定の [ネットワーク設定] タブに仮想マシン用ネットワークの設定をしてください。
ネットワークの設定については、「3 論理ネットワークを利用した仮想ネットワーク構成」を参照してください。
4. DataCenter を設定します。
グループプロパティ設定の [全般] タブにある [データセンタ] プルダウンボックスに、SigmaSystemCenter に登録されている DataCenter の一覧が表示されます。その一覧の中から DataCenter を選択してください。スクリプトインストール完了後に SigmaSystemCenter が、設定した DataCenter に仮想マシンサーバを登録します。
DataCenter を新規に作成する場合、[仮想] ビューから行ってください。
5. ホストを作成します。
作成した仮想マシンサーバ用のグループのアイコンをクリックし、[ホスト一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [ホスト追加] を選択し、ホストを追加してください。
6. ストレージを設定します。
ストレージ連携を使用してストレージを制御する場合は、ホスト設定の [ストレージ] タブからストレージを設定してください。

ストレージの設定については、「4 ディスクボリュームの接続制御を利用した共有データストアの設定」を参照してください。

7. ネットワークを設定します。

ホスト設定の [ネットワーク] タブにネットワークを追加してください。

NIC#1 の 1 番目に管理用ネットワーク (Management Network) に設定する IP アドレスを設定してください。また、この IP アドレスを使って vCenter Server のインベントリに登録が行われます。

NIC#1 の 1 番目以外に "VMKernel" に設定する IP アドレスを設定してください。指定した物理 NIC に仮想スイッチを作成し、その仮想スイッチ上に VMKernel が作成されます。この IP アドレスを設定しない場合、"VMKernel" は作成されません。また、複数の VMKernel が存在する場合は、設定したネットワーク情報の NIC 番号が小さい番号を優先し、そのネットワーク情報に一致する VMKernel を vMotion に使用します。

この IP アドレスを設定しない場合は、Management Network を vMotion に使用します。

なお、スクリプトインストールに使用する NIC が物理 NIC#1 ではない場合は、同じ NIC#1 に設定した管理用ネットワークと VMKernel のネットワーク情報は、同じ仮想スイッチに作成されません。管理用ネットワークはスクリプトインストールに使用した物理 NIC に接続されている仮想スイッチに作成され、VMKernel は [ネットワーク] タブで設定した物理 NIC に接続されている仮想スイッチに作成されます。

ホスト設定

全般 ネットワーク ストレージ ソフトウェア マシンプロファイル ホストプロファイル データストア設定 死活監視 性能監視 カスタム

IPアドレスを設定してください。IPアドレスを設定しない場合、IPアドレス自動取得になります。

NIC一覧

	NIC 番号	IPアドレス	マスク/プレフィックス長	デフォルトゲートウェイ	編集
☐	1	172.16.0.3	255.240.0.0	172.16.0.2	
☐		172.16.0.103	255.240.0.0	172.16.0.2	

管理用IPアドレス 172.16.0.3

戻る

注:

- ・ ホストに設定したホスト名、およびホストプロファイルに設定したドメインサフィックスを使って、vCenter Server のインベントリに FQDN 形式で登録が行われます。IP アドレスで登録する場合は、下記のレジストリを設定してください。

[HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥WOW6432Node¥NEC¥PVM¥Provider¥VM¥VMware]

EnableIPSetting(REG_DWORD): 1

- ・ ご使用の環境によっては vCenter Server と仮想マシンサーバ (ESXi) が通信可能になるまでに時間がかかり、スクリプトインストール完了後に行われる vCenter Server のインベントリ登録で「仮想マシンサーバ (サーバ名) の追加が失敗しました。」のメッセージが出力されて失敗する場合があります。このような場合は、下記のレジストリを設定し、リトライ回数を調整してください。

[HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥WOW6432Node¥NEC¥PVM¥ActionSequence]

AddVMServerRetryCounter(REG_DWORD): リトライ回数

AddVMServerSleepTimer(REG_DWORD): リトライ間の待ち合わせ秒数

8. パスワードを設定します。

以下の 4 箇所のいずれかに設定してください。

- ・ グループプロパティ設定の [ホストプロファイル] タブ
- ・ モデルプロパティ設定の [ホストプロファイル] タブ
- ・ ホスト設定の [ホストプロファイル] タブ
- ・ ホスト設定の [全般] タブ

注: パスワードの優先順位は、ホスト設定の [ホストプロファイル] タブ、ホスト設定の [全般] タブ、モデルプロパティ設定の [ホストプロファイル] タブ、グループプロパティ設定の [ホストプロファイル] タブになります。この 4 箇所のいずれにもパスワードが設定されてない場合は、ESXi を vCenter Server に登録できません。

9. スクリプトインストールのシナリオを登録します。

シナリオは、グループプロパティ設定、モデルプロパティ設定、ホスト設定、マシンプロパティ設定に設定できます。

シナリオを登録する際のソフトウェアの種類は、以下を指定してください。

- ・ グループプロパティ設定の場合 : 「稼動時」
- ・ モデルプロパティ設定の場合 : 「稼動時」
- ・ ホスト設定の場合 : 「稼動時・グループ配布前」、「稼動時」、「稼動時・グループ配布後」
- ・ マシンプロパティ設定の場合 : 「稼動時・グループ配布前」、「稼動時・グループ配布後」

シナリオをマシンごとに設定する場合は、ホスト設定、またはマシンプロパティ設定に登録してください。同じハードウェア構成のマシンが所属するグループごとに設定する場合は、グループプロパティ設定、およびモデルプロパティ設定に登録してください。

注:

- ・ スクリプトインストールのシナリオは、グループプロパティ設定、モデルプロパティ設定、ホスト設定、マシンプロパティ設定に多重に登録しないでください。スクリプトインストールに失敗します。
- ・ スクリプトインストールのシナリオを、複数のサーバで共通のシナリオを使用する場合は、ESXi をインストールするマシンのハードウェア構成が一致している必要があります。構成が一致していないマシンの場合、シナリオ配布時に意図しないディスクに対して、ESXi がインストールされることで、ディスク上の仮想マシンが削除される場合があります。また、共有ストレージ (SAN など) を接続する場合は、インストールするディスクのみを接続する設定を推奨します。詳細については「4 ディスクボリュームの接続制御を利用した共有データストアの設定」を参照してください。
- ・ 1 つのシナリオを使って、複数のサーバに対して同時にスクリプトインストールを実行した場合、OS 固有情報の反映が正しく行われず、スクリプトインストールに失敗します。複数同時に行う場合は、「5 ESXi 5 および ESXi 6 自動インストール (スクリプトインストール) 用シナリオ作成」に従って、キックスタート構成ファイルとブートパラメータファイルをそれぞれ用意し、DPM で複数同時に行う台数分のシナリオを作成してください。

関連情報: シナリオの配布順については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「1.3.7 登録ソフトウェアの配布順序」を参照してください。

10. ポリシーを設定します。

ポリシーを設定することで、グループに登録した仮想マシンサーバに障害が発生した場合など、自動で仮想マシンサーバを追加して復旧することができます。

ポリシーの設定については、「2 ポリシーを利用した仮想マシンサーバ・プロビジョニング」を参照してください。

関連情報: ポリシーの設定は必須ではありません。運用に合わせて設定してください。

11. その他の項目は必要に応じて設定してください。

1.1.5. 仮想マシンサーバ・プロビジョニングの実行方法

仮想マシンサーバ・プロビジョニングを実行する方法は、手動で実行する方法と自動で実行する方法の 2 通りがあります。

注: 1 つのシナリオを使って複数同時にマシン・仮想マシンサーバに対してスクリプトインストールを実行しないでください。複数同時に実行する場合は、複数のシナリオを作成し、1 つのシナリオで 1 台のマシンに対してスクリプトインストールを実行してください。

- ◆ 手動で実行する場合は、物理マシン（仮想マシンサーバを含む）にリソース割り当て、もしくはスケールアウトを実行し、マシンを運用グループで移動する際に仮想マシンサーバ・プロビジョニングが実行されます。

関連情報:

- ・ リソース割り当てについては、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「7.2.2 ホストにリソースを割り当てるには」を参照してください。
 - ・ スケールアウトについては、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「7.5. スケールアウト」を参照してください。
-

- ◆ 自動で実行する場合は、グループ、またはモデルにポリシー設定を行います。イベントに対する復旧処理に [グループ操作 / グループマシン追加] の設定を行うことによってイベント契機による仮想マシンサーバ・プロビジョニングが実行されます。

関連情報: ポリシーについては、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「4.11. ポリシーを作成する」を参照してください。

1.1.6. ESXi の構成変更

ESXi にディスクの追加などハードウェア構成を変更すると、マシンの認識するディスクの順番が、登録しているキックスタート構成ファイルの設定と一致なくなり、インストールが正しく行われずに使用中のディスクが壊れる場合があります。

インストールの対象マシンのハードウェア構成を変更する場合は、以下の手順に従ってください。

注:共有ストレージ (SAN など) を接続する場合は、インストールするディスクのみを接続する設定を推奨します。詳細については「4 ディスクボリュームの接続制御を利用した共有データストアの設定」を参照してください。

1. ESXi の構成を変更します。

関連情報: ESXi の構成を変更する方法は、VMware 社発行のマニュアルを参照してください。

2. スクリプトインストールシナリオを再作成します。
詳細な作成手順については、「5 ESXi 5 および ESXi 6 自動インストール (スクリプトインストール) 用シナリオ作成」を参照してください。
3. 作成したスクリプトインストールシナリオを再登録します。
作成したシナリオを「1.1.4 SigmaSystemCenter の設定」に従って、仮想マシンサーバ用のグループに再登録してください。

1.1.7. 注意・制限事項

- ◆ スクリプトインストールで、セカンダリ DNS、ターシャリ DNS の設定は反映されません。設定が必要な場合、スクリプトインストール後、ESXi に個別に設定してください。
- ◆ スクリプトインストールでは、キックスタート構成ファイルに記述している設定内容に従って自動的にインストールが行われます。

ハードディスクの追加、ネットワークアダプタの追加などハードウェア構成の変更を行った場合は、ESXi のデバイスを認識する順番が変わる場合があります。そのため、ハードウェア構成を変更する前のシナリオを使ってスクリプトインストールを行うと、インストールが正しく行われずに意図しないディスクに対して、ESXi がインストールされることで、既に存在するディスク領域が誤ってフォーマットされ、ディスク上の仮想マシンが削除される場合があります。

ハードウェア構成を変更した場合は、必ずシナリオを再作成してください。

また、シナリオを実行するマシンは、シナリオの作成元となったマシンと同じハードウェア構成のマシンに対してのみ実行してください。

また、共有ストレージ (SAN など) を接続する場合は、インストールするディスクのみを接続する設定を推奨します。詳細については、「4 ディスクボリュームの接続制御を利用した共有データストアの設定」を参照してください。
- ◆ 仮想マシンサーバに対して、「リソース割り当て」を行う場合、仮想マシンサーバ上に仮想マシン、またはテンプレートが存在すると失敗します。
- ◆ 仮想マシンサーバに対して、「用途変更」を行う場合、仮想マシンサーバ上に仮想マシンまたはテンプレートが存在すると失敗します。
- ◆ 仮想マシンサーバ・プロビジョニングは、スクリプトインストールに使用する物理 NIC を管理用 LAN とし、その LAN 上に DPM サーバが存在する必要があります。また、PXE ブートで使用する物理 NIC が管理 LAN に接続されている必要があります。
- ◆ VMware ESXi のスクリプトインストール後に CD ドライブのトレイが開く場合があります。
- ◆ スクリプトインストールを行うマシンのネットワークセグメント内に複数の DPM サーバが存在していた場合、誤動作の原因となります。
- ◆ ファームウェアが EFI モードは対応していません。BIOS モードに設定してください。

2. ポリシーを利用した仮想マシンサーバ・プロビジョニング

ESXi が稼動するグループにポリシーを設定することにより、ESXi で障害が発生した場合に、代替マシンを作成することが可能です。

ESXi のアクセス不可障害を契機に、プールマシンに仮想マシンサーバ・プロビジョニングを行うための手順を説明します。

概略手順

1. ポリシーの設定
2. 追加マシン用のホスト設定の作成
3. プールへのマシン追加
4. ポリシーの有効化

注: 本機能を使用する場合は、本番業務開始前の評価段階で本機能の有効性を十分に検証した上で行ってください。

1. ポリシーの設定

関連情報: ポリシーの設定方法については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「4.11. ポリシーを作成する」を参照してください。

- vCenter Server 環境の VMware ESXi の場合
"標準ポリシー (仮想マシンサーバ)" のポリシープロパティ設定の [監視イベント] タブから「ターゲットアクセス不可」に以下の復旧アクションを追加します。

- グループ操作 / スケールアウト マシン追加

必要に応じて、標準ポリシー (仮想マシンサーバ) を複製してください。

ポリシー規則名「ターゲットアクセス不可」にアクション「グループ操作 / スケールアウト マシン追加」を追加します。また、アクション「グループ操作 / スケールアウト マシン追加」のアクションパラメータ詳細画面でアクションの実行条件を Completed に変更します。

ポリシー規則設定 (編集)

ポリシー規則名: ターゲットアクセス不可

対象処置情報: 稼働中のVMを移動

イベントの選択

☐ 単一のイベントを指定する

☐ 区分全てのイベントを対象とする

☒ 複数のイベントを選択して条件を設定する

イベント区分: []

通報元: []

イベントID: []

複数イベント条件: 排他抑制

A群イベント一覧: [Source]ESMDSVNT [ID]0xC0000002(2) [Summary]サーバアクセス不能 マシンへのアクセスに失敗しました。

待ち合わせ時間: 0

B群イベント一覧: []

イベントに対するアクション

No.	ラベル	実行条件	アクション
☐ 1		Success	通報 / E-mail通報、イベントログ出力
☐ 2		Success	マシン設定 / ステータス設定 故障
☐ 3		Success	マシン操作 / マシン診断・強制OFF
☐ 4		Success	VMS操作 / 稼働中のVMを移動(Migration, Failover)
☐ 5		Completed	グループ操作 / スケールアウト マシン追加

[アクションの追加]

適用 戻る

- スタンドアロン ESXi 環境の VMware ESXi の場合

ESXi 用のポリシーを新規作成し、アクション「グループ操作 / スケールアウト マシン追加」を含めたアクションの設定を行います。

1. ポリシーの追加でテンプレート "標準ポリシー(仮想マシンサーバスタンドアロン ESXi)" を指定してポリシーを作成します。
2. ポリシー規則名「VMS アクセス不可」にアクション「グループ操作 / スケールアウト マシン追加」を追加します。また、アクション「グループ操作 / スケールアウト マシン追加」のアクションパラメータ詳細画面でアクションの実行条件を Completed に変更します。

ポリシー規則設定(編集)

ポリシー規則名: VMSアクセス不可

対象処置情報: VMS上の全VM移動

イベントの選択

☒ 単一のイベントを指定する
☐ 区分全てのイベントを対象とする
☐ 複数のイベントを選択して条件を設定する

イベント区分: マシンアクセス不可能障害

通報元: StandaloneEsxProvider

イベントID: Alarm Host connection state on VMS changed from green to red

イベントに対するアクション

No.	ラベル	実行条件	アクション
☐ 1		Success	通報/ E-mail通報、イベントログ出力
☐ 2		Success	マシン設定/ ステータス設定 故障
☐ 3		Success	マシン操作/ マシン診断・強制OFF
☐ 4		Success	VMS操作/ 全VMを移動(Failover)
☐ 5		Completed	グループ操作/ スケールアウト マシン追加

| アクションの追加 |

適用 戻る

関連情報: イベントに対する復旧処理のアクションは上から順に実行されます。アクションの実行順序は運用状態により変更してください。

また、ポリシー契機により仮想マシン移動を行うには、仮想マシンが管理状態となっている必要があります。管理状態にする方法については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「9.2.3 仮想マシンを追加登録するには」を参照してください。

2. 追加マシン用のホスト設定の作成

ESXi のアクセス不可障害を契機に追加されるマシン用にホスト設定を作成します。グループプロパティ設定の [ホスト] タブから追加してください。

作成方法については、本書「1.1.4 SigmaSystemCenter の設定」の手順 4、手順 5 を参照してください。

注: ポリシーを契機としたマシン追加では、グループにある未使用のホスト設定が使用されます。「ターゲットアクセス不可」を検知したマシンとは異なるホスト設定で稼動するため、ホスト名、IP アドレスなどホスト情報を引き継ぐことはできません。

3. プールへのマシン追加

復旧処理 [グループ操作 / スケールアウト マシン追加] によりマシンの追加を行うには、事前にグループのプールにマシンを追加する必要があります。

マシンを [リソース] ビューから [マシン登録] を行った後、[運用] ビューの [プールに追加] を実行してください。

関連情報:

- ・ マシンをリソースに登録するには、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「9.2.1 物理マシンを追加登録するには」を参照してください。
 - ・ プールにマシンを追加するには、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「7.1. プールにマシンを追加する」を参照してください。
-

4. ポリシーの有効化

ESXi を稼動させるグループ、または VM サーバモデルに、手順 1「ポリシーの設定」で変更したポリシーを設定してポリシーの有効化を行います。グループプロパティ設定・VM サーバモデルのモデルプロパティ設定の [全般] タブから [ポリシー名] を設定することにより、ポリシーが有効化されます。

関連情報: グループの設定方法については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「5.5. グループプロパティを設定する」、モデルの設定方法については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「5.8. モデルプロパティを設定する (仮想マシンサーバの場合)」を参照してください。

以上で、ポリシーを利用した仮想マシンサーバ・プロビジョニングの設定は完了です。

3. 論理ネットワークを利用した仮想ネットワーク構成

グループ、または VM サーバモデルに論理ネットワークを設定することで、仮想マシンサーバのリソース割り当てやマシンの置換 / 用途変更、マスタマシン登録、スケールアウトなどを行うときに、物理 NIC の冗長化や仮想スイッチと仮想ポートグループを作成することができます。

構成例

1. 管理用 LAN を冗長化する場合
2. 業務用 LAN を冗長化する場合
3. 管理用 LAN と業務用 LAN を冗長化する場合
4. 業務用 LAN に VLAN ID を設定する場合
5. 論理ネットワークを設定しない場合

注:

- ・ vmnic に割り当てられる物理 NIC は、手動インストールとスクリプトによる自動インストールで、ハードウェアにより異なる場合があるため、ご使用の環境に合わせて設定してください。
- ・ 分散仮想スイッチを自動作成する機能はありません。そのため、仮想マシン用のネットワークに分散仮想スイッチを使用する場合は vCenter Server にあらかじめ作成し、論理ネットワークを設定してください。

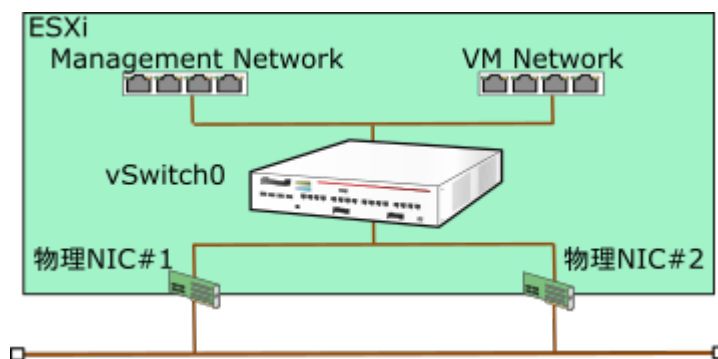
また、管理用仮想ポートを分散スイッチに作成できないため、管理用の物理 NIC に分散スイッチを指定することはできません。

関連情報: 詳細な論理ネットワーク、ネットワークの設定方法については「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「4.5 論理ネットワークを追加する」、「5.5.5 [ネットワーク設定] タブを設定するには」を参照してください。

3.1.1. 管理用 LAN を冗長化する場合

スクリプトインストールを実行することで管理用仮想ポートグループ "Management Network" は仮想スイッチ "vSwitch0" に作成されます。また、仮想スイッチ "vSwitch0" には物理 NIC#1 が接続されます。

物理 NIC#1 と物理 NIC#2 を仮想スイッチ "vSwitch0" に接続して冗長化し、下記の構成を作成します。



1. 論理ネットワークの作成

仮想マシン用の仮想ポートグループ "VM Network" を作成して管理用 LAN の冗長化設定をします。

[リソース] ビューのネットワーク追加画面で VLAN 定義に VLAN 名 "VM Network" の設定があるネットワークを追加します。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "VLAN(ポートグループ)定義追加" (VLAN (Port Group) Definition Addition). The dialog has several fields and options:

- スイッチ** (Switch): A dropdown menu currently set to "仮想スイッチ" (Virtual Switch).
- ヒント** (Hint): Text explaining that the user should select a switch to apply VLAN to, and that physical switches are only applicable if set in the VM's network tab.
- スイッチ名** (Switch Name): An empty text input field.
- ヒント** (Hint): Text explaining that if no virtual switch is available, one will be created with the specified name, or the system will auto-generate a name if none is specified.
- VLAN(ポートグループ)指定** (VLAN (Port Group) Specification): A section with two radio buttons: "選択" (Select) and "新規" (New). The "新規" option is selected.
- 選択** (Select): A dropdown menu currently set to "なし" (None).
- 新規** (New): A text input field containing "VM Network".
- VLAN種別** (VLAN Type): A dropdown menu currently set to "なし" (None).
- VLAN ID**: An empty text input field.
- Buttons**: "OK" and "キャンセル" (Cancel) buttons at the bottom right.

 論理ネットワーク追加

名前

タグ

公開範囲 ☒ Public ☐ Private

テナントへの割り当て

説明

VLAN(ポートグループ)定義 | アドレスプール | 静的ルート | ファイアウォール

VLAN(ポートグループ)定義一覧

	スイッチ名	VLAN(ポートグループ)名	VLAN 種別	VLAN ID	編集
☐		VM Network	なし		

OK キャンセル

2. ネットワークの設定

グループ、または VM サーバのモデルプロパティ設定の [ネットワーク設定] タブで冗長化する物理 NIC#1 と物理 NIC#2 が VLAN "VM Network" に接続するように設定をします。

 モデルプロパティ設定 戻る

全般 | ストレージ | ソフトウェア | VM 最適化 | VM 配置制約 | データストア設定 | **ネットワーク設定** | ホストプロファイル | 死活監視 | 性能監視

ネットワーク一覧

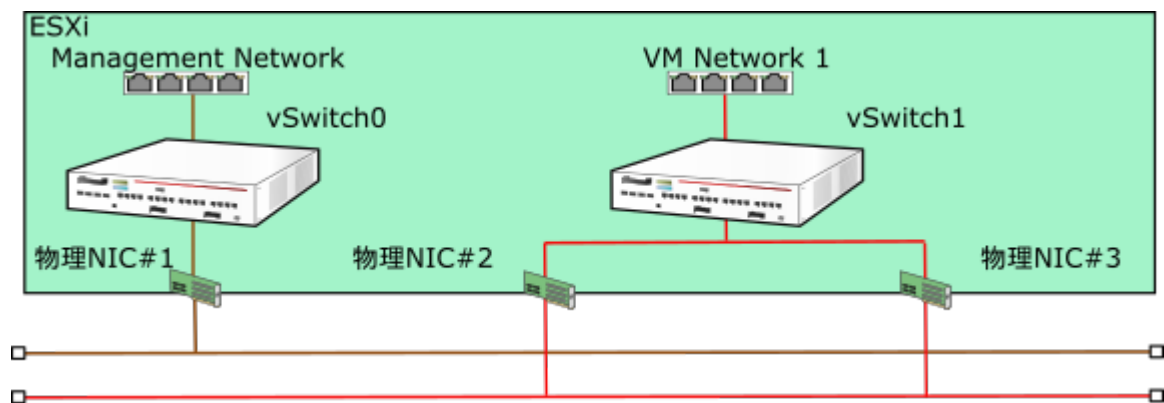
	NIC 番号	ネットワーク	スイッチ	VLAN(ポートグループ)	タグ
☐	1,2	VM_Network		VM Network	

戻る

3.1.2. 業務用 LAN を冗長化する場合

スクリプトインストールを実行することで管理用仮想ポートグループ "Management Network" は仮想スイッチ "vSwitch0" に作成されます。また、仮想スイッチ "vSwitch0" には物理 NIC#1 が接続されます。

業務用 LAN を冗長化するには、仮想スイッチを追加して物理 NIC を接続する必要があります。本設定を行うことで、仮想スイッチ "vSwitch1" に物理 NIC#2、物理 NIC#3 を接続し、下記の構成を作成します。



1. 論理ネットワークの作成

[リソース] ビューのネットワーク追加画面で VLAN 定義に VLAN 名 "VM Network 1" の設定があるネットワークを追加します。

VLAN(ポートグループ)定義追加

スイッチ 仮想スイッチ

ヒント: VLANを適用するスイッチを選択します。
「全スイッチ(物理)」は「マシンプロパティ」の「ネットワーク」タブに設定された物理スイッチに適用されます。

スイッチ名

ヒント: 利用できる仮想スイッチがない場合、設定した名前の仮想スイッチを作成します。
スイッチ名を指定しない場合は、システムによって自動で名前が決まります。

VLAN(ポートグループ)指定

☐ 選択 なし

☒ 新規 VM Network 1

VLAN種別 なし

VLAN ID

OK キャンセル

論理ネットワーク追加

名前

タグ

公開範囲 ☒ Public ☐ Private

テナントへの割り当て 設定なし

説明

VLAN(ポートグループ)定義 アドレス プール 静的ルート ファイアウォール

VLAN(ポートグループ)定義一覧

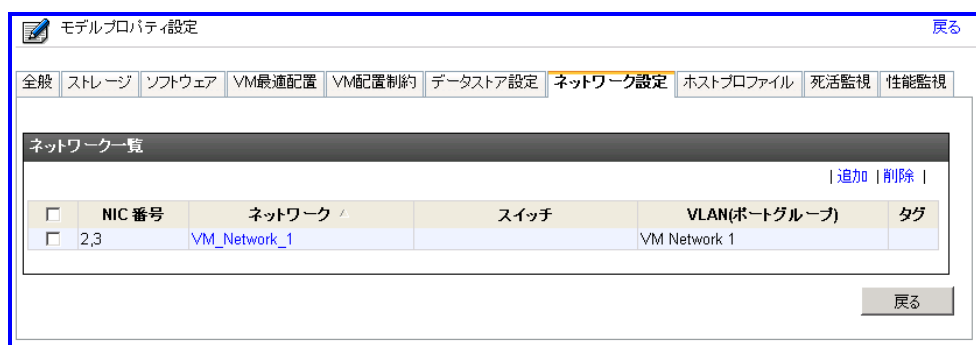
	スイッチ名	VLAN(ポートグループ)名	VLAN 種別	VLAN ID	編集
☐		VM Network 1	なし		

追加 削除

OK キャンセル

2. ネットワークの設定

グループ、または VM サーバのモデルプロパティ設定の [ネットワーク設定] タブで冗長化する物理 NIC#2 と物理 NIC#3 が VLAN "VM Network 1" に接続するように設定をします。

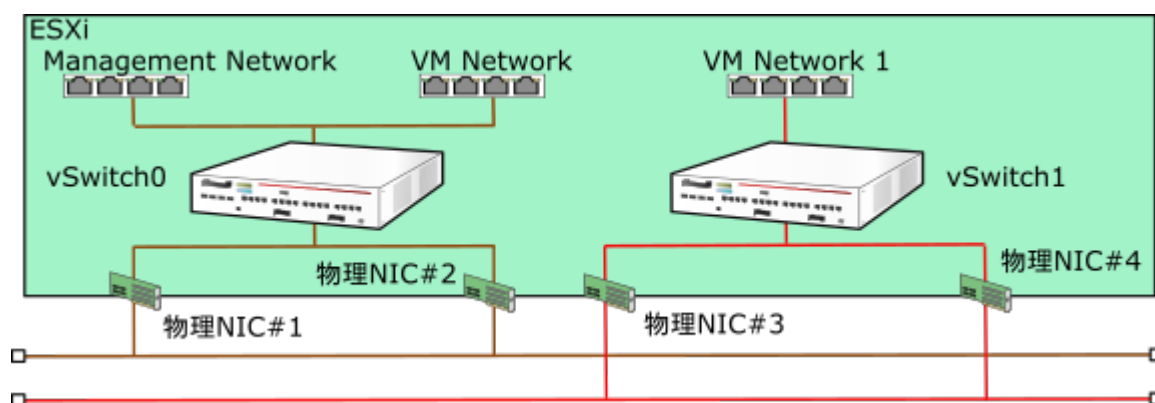


3.1.3. 管理用 LAN と業務用 LAN を冗長化する場合

スクリプトインストールを実行することで管理用仮想ポートグループ "Management Network" は仮想スイッチ "vSwitch0" に作成されます。また、仮想スイッチ "vSwitch0" には物理 NIC#1 が接続されます。

物理 NIC#2 を仮想スイッチ "vSwitch0" に接続して管理用 LAN を冗長化します。

仮想スイッチ "vSwitch1" を作成し、物理 NIC#3、物理 NIC#4 を接続して業務用 LAN を冗長化する下記の構成を作成します。



1. 論理ネットワークの作成

前々項「3.1.1 管理用 LAN を冗長化する場合」と前項「3.1.2 業務用 LAN を冗長化する場合」で作成した論理ネットワークを作成します。

2. ネットワークの設定

グループ、または VM サーバのモデルプロパティ設定の [ネットワーク設定] タブで冗長化する物理 NIC#1 と物理 NIC#2 が VLAN "VM Network" に接続するように設定をします。

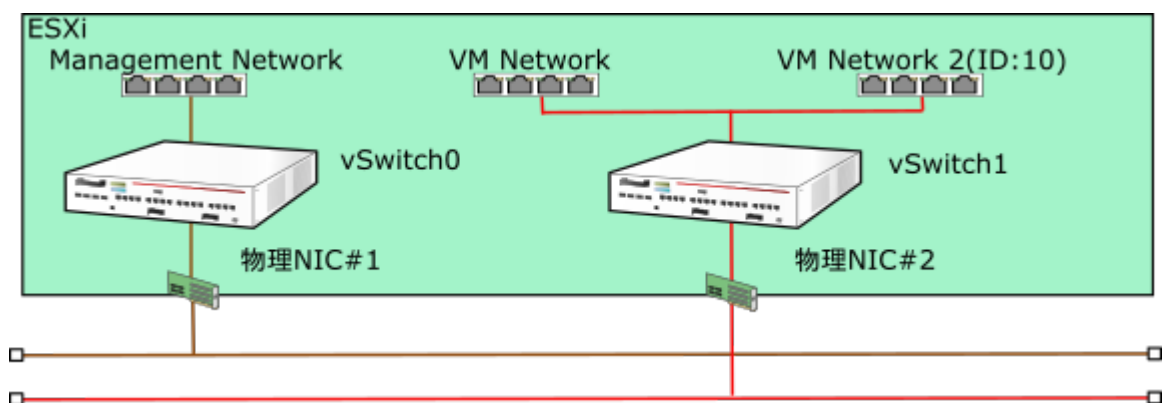
また、物理 NIC#3 と物理 NIC#4 が VLAN "VM Network 1" に接続するように設定します。



3.1.4. 業務用 LAN に VLAN ID を設定する場合

スクリプトインストールを実行することで管理用仮想ポートグループ "Management Network"は仮想スイッチ "vSwitch0" に作成されます。また、仮想スイッチ "vSwitch0" には物理 NIC#1 が接続されます。

仮想スイッチ "vSwitch1" を作成し、業務用 LANにある仮想マシン用の仮想ポートグループ "VM Network 2" を作成し、VLAN ID を設定して下記の構成を作成します。



1. 論理ネットワークの作成

[リソース] ビューのネットワーク追加画面で VLAN 定義に VLAN 名 "VM Network 2"、VLAN ID "10" の設定があるネットワークを追加します。

VLAN(ポートグループ)定義追加

スイッチ: 仮想スイッチ

ヒント: VLANを適用するスイッチを選択します。
「全スイッチ(物理)」は「マシンプロパティ」の「ネットワーク」タブに設定された物理スイッチに適用されます。

スイッチ名:

ヒント: 利用できる仮想スイッチがない場合、設定した名前の仮想スイッチを作成します。
スイッチ名を指定しない場合は、システムによって自動で名前が決められます。

VLAN(ポートグループ)指定

☐ 選択: なし

☒ 新規: VM Network 2

VLAN種別: VLAN

VLAN ID: 10

OK キャンセル

論理ネットワーク追加

名前: VM_Network_2

タグ:

公開範囲: ☒ Public ☐ Private

テナントへの割り当て: 設定なし

説明:

VLAN(ポートグループ)定義 アドレス プール 静的ルート ファイアウォール

VLAN(ポートグループ)定義一覧

	スイッチ名	VLAN(ポートグループ)名	VLAN 種別	VLAN ID	編集
☐		VM Network 2	VLAN	10	

| 追加 | 削除 |

| 追加 | 削除 |

OK キャンセル

2. ネットワークの設定

業務用 LAN の物理 NIC#2 に VLAN "VM Network" と VLAN "VM Network 2" が接続するように設定します。



3.1.5. 論理ネットワークを設定しない場合

論理ネットワークを設定しない場合は、仮想マシン用ネットワークは作成されません。下記のレジストリを設定することで以下の構成で仮想マシン用のネットワークを作成します。

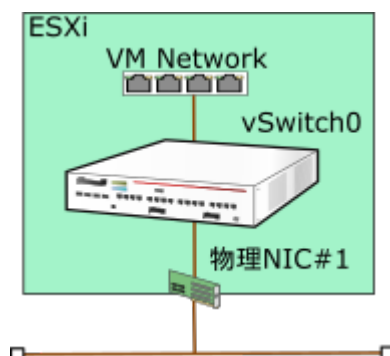
キー: [HKLM\SOFTWARE\WOW6432Node\NEC\PVM\Provider\VM\VMware]

値: EnableDefaultVmPortgroup (DWORD:1)

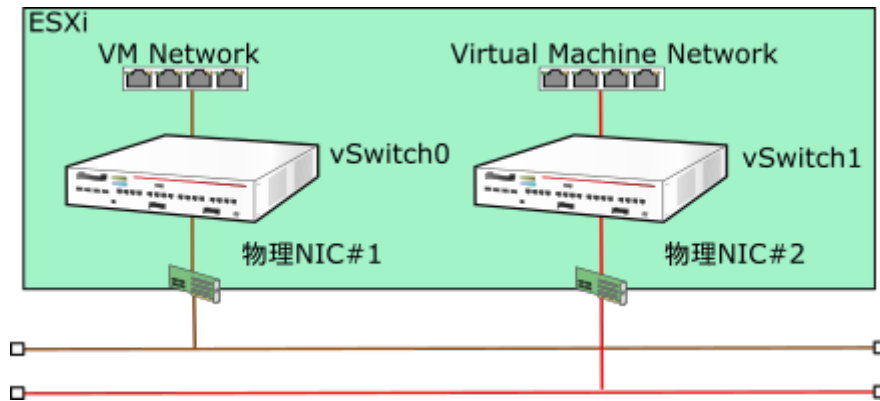
以下の構成からネットワーク構成を変更する場合は、仮想マシンサーバ・プロビジョニング後に手動で設定してください。

◆ 物理 NIC が 1 枚で、管理用、および業務用 LAN を兼用する構成の場合

物理 NIC#1 に接続している仮想スイッチ "vSwitch0" (スクリプトインストール時に作成される) に、仮想マシン用の仮想ポートグループ "VM Network" を作成します。



- ◆ 物理 NIC が 2 枚で、1 枚目が管理用 LAN、2 枚目が業務用 LAN の構成の場合
物理 NIC#1 に接続している仮想スイッチ "vSwitch0" (スクリプトインストール時に作成される) に、仮想マシン用の仮想ポートグループ "VM Network" を作成します。
物理 NIC#2 に接続する仮想スイッチ "vSwitch1" を作成します。
作成した仮想スイッチ "vSwitch1" に、仮想マシン用の仮想ポートグループ "Virtual Machine Network" を作成します。



4. ディスクボリュームの接続制御を利用した共有データストアの設定

ホスト設定にストレージを設定することで、仮想マシンサーバのリソース割り当てやマシンの置換 / 用途変更、マスタマシン登録、スケールアウトなどを行うときに、ESXi をインストールするディスクやデータストアとして使用するディスクの制御を行うことができます。

ディスクボリュームの接続を制御することでスクリプトインストール時は ESXi をインストールするディスクのみ接続し、データストアとして使用するディスクを非接続にすることでインストールに使用するディスクを特定することができ、誤って既存のデータストアがフォーマットされることがなくなります。

ストレージを設定しない場合は、キックスタート構成ファイル内で ESXi をインストールするディスクを正しく指定する必要があります。

構成例

1. ローカルディスクにインストールする場合
2. SAN の LUN にインストールする場合

注: 共有データストアを設定する場合は、[ストレージ] タブに設定するディスクの順番とディスクボリュームの組み合わせをすべてのホスト設定で同じ設定にしてください。同じ設定でない場合は共有データストアとして使用できません。

関連情報: 詳細なストレージの設定方法については「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「5.9.3 [ストレージ] タブを設定するには」を参照してください。

4.1.1. ローカルディスクにインストールする場合

ESXi をローカルディスクにインストールし、SAN の LUN をデータストアとして使用するよう構成します。

ローカルディスクが複数ある場合は、キックスタート構成ファイル内でインストールするディスクを正しく指定する必要があります。

1. マシンの HBA 設定

ESXi のインストール対象のマシンに装着されている HBA 番号を設定します。

[リソース] ビューからマシンプロパティ設定の [ストレージ] タブで HBA 番号を設定します。

マシンプロパティ設定

全般 ネットワーク **ストレージ** ソフトウェア ソフトウェア配布履歴 アカウント情報 カスタム

ストレージ情報

| 追加 | 削除 |

☐	HBA番号	アドレス	接続先	編集
☐	0	2000-0000-C999-05A5/1000-0000-C999-05A5	SANStorage	

戻る

2. HBA に割り当てるディスクを設定

稼動するときに HBA 番号に割り当てるディスクを設定します。

[運用] ビューからホスト設定の [ストレージ] タブで割り当てるディスクを [配布後に接続] にチェックを入れて設定します。

ホスト設定

全般 ネットワーク **ストレージ** ソフトウェア マシンプロファイル ホストプロファイル データストア設定 死活監視 性能監視 カスタム

ストレージ一覧

| 追加 | 削除 |

☐	順番	配布後に接続	LUN	ディスクアレイ	ディスクボリューム	共有状態	HBA番号	アドレス	接続状況	編集
☐	1	☒		SANStorage	ESX_SAN1	共有	全て		-	
☐	2	☒		SANStorage	ESX_SAN2	共有	全て		-	
☐	3	☒		SANStorage	ESX_SAN3	共有	全て		-	

モデル設定一覧

モデル: VMS

順番	配布後に接続	LUN	ディスクアレイ	ディスクボリューム	共有状態	HBA番号	アドレス	接続状況
----	--------	-----	---------	-----------	------	-------	------	------

グループ設定一覧

順番	配布後に接続	LUN	ディスクアレイ	ディスクボリューム	共有状態	HBA番号	アドレス	接続状況
----	--------	-----	---------	-----------	------	-------	------	------

適用 戻る

[配布後に接続] にチェックがあるディスクは ESXi がインストールされた後に割り当てるため、これらのディスクに ESXi がインストールされることはありません。

4.1.2. SAN の LUN にインストールする場合

ESXi を SAN の LUN にインストールするように構成します。

ローカルディスクがある場合は、キックスタート構成ファイル内でインストールするディスクを正しく指定する必要があります。

1. マシンの HBA 設定

ESXi のインストール対象のマシンに装着されている HBA 番号を設定します。

[リソース] ビューからマシンプロパティ設定の [ストレージ] タブで HBA 番号を設定します。

The screenshot shows the 'Machine Properties' window with the 'Storage' tab selected. The 'Storage Information' section contains a table with HBA configuration details.

☐	HBA番号	アドレス	接続先	編集
☐	0	2000-0000-C999-05A5/1000-0000-C999-05A5	SANStorage	

Buttons: [追加] [削除] (top right), [戻る] (bottom right)

2. HBA に割り当てるディスクを設定

稼動するときに HBA 番号に割り当てるディスクボリュームを設定します。

[運用] ビューからホスト設定の [ストレージ] タブでデータストアとして使用するディスクを [配布後に接続] にチェックを入れて設定します。



ホスト設定

全般 ネットワーク **ストレージ** ソフトウェア マシンプロファイル ホストプロファイル データストア設定 死活監視 性能監視 カスタム

ストレージ一覧

| 追加 | 削除 |

☐	順番	配布後に接続	LUN	ディスクアレイ	ディスクボリューム	共有状態	HBA番号	アドレス	接続状況	編集
☐	1			SANStorage	ESX60_BOOT01	非共有	全て		-	↑
☐	2	✓		SANStorage	ESX_SAN1	共有	全て		-	↓
☐	3	✓		SANStorage	ESX_SAN2	共有	全て		-	

モデル設定一覧

モデル: VMS

順番	配布後に接続	LUN	ディスクアレイ	ディスクボリューム	共有状態	HBA番号	アドレス	接続状況
----	--------	-----	---------	-----------	------	-------	------	------

グループ設定一覧

順番	配布後に接続	LUN	ディスクアレイ	ディスクボリューム	共有状態	HBA番号	アドレス	接続状況
----	--------	-----	---------	-----------	------	-------	------	------

適用 戻る

ESXi のインストール時には [配布後に接続] にチェックがないディスクのみ接続され、インストールに使用されます。インストールが完了した後に [配布後に接続] にチェックがあるディスクが接続されます。

5. ESXi 5 および ESXi 6 自動インストール (スクリプトインストール) 用シナリオ作成

ESXi 5 および ESXi 6 の自動インストールを行うには、DPM に ESXi のクリアインストールシナリオを登録後、SigmaSystemCenter に登録し、自動インストールを行うグループに対して、配布ソフトウェアとして追加してください。

概略手順:

1. DPM のセットアップ
2. ESXi のキックスタート構成ファイル作成
3. ESXi のブートパラメータファイル作成
4. ESXi の boot.cfg ファイル作成
5. DPM に OS インストールシナリオ登録

注: 本ソリューションガイドに記載しているキックスタート構成ファイルのスクリプトは、サンプルとしての提供です。ご使用の環境に合わせたカスタマイズ、および動作検証を十分に行った上で引用してください。

また、概略手順の 1.~4.まではファイルの配置を手動で行うものがあります。手順実施後は以下のフォルダ構成になっているかを確認してください。

<TFTP ルートフォルダ>

- + gpxelinux
 - + ESXi_PXEBOOT (任意の名前)
 - mboot.c32
 - menu.c32
 - boot.cfg

<DPM イメージ格納用フォルダ>

- + exports
 - + ESXi (任意の名前)
 - ESXi のインストール CD の内容
 - + ks
 - esxi.cfg (任意の名前)
 - + AnsFile
 - + linux
 - esxi_boot (任意の名前)
-

5.1.1. DPM のセットアップ

DPM のセットアップを行います。

ESXi 自動インストールを行う場合、IIS サーバに Web 共有フォルダの設定が必要となります。手順は「6 IIS 構築」を参照してください。

注: IIS で公開するフォルダは、「DPM イメージ格納用フォルダ¥exports」になります。
DPM イメージ格納用フォルダは DPM の Web コンソールから確認できます。既定値は、「C:¥Deploy」になります。

また、クラスタ構成など DPM の詳細設定で DHCP サーバを別居設定にしている場合は、DHCP サーバに対してオプション設定が必要となります。手順は「5.1.6 DHCP サーバ / DPM サーバ別居の場合の設定」を参照してください。

1. PXE ブート用ファイルの準備

PXE ブートするために「TFTP ルートフォルダ¥gpxelinux¥」(TFTP ルートフォルダの既定値は、「DPM のインストールフォルダ¥PXE¥Images」になります。) に任意の名前のフォルダ (本書では以降、「ESXi_PXEBOOT」として進めます。) を作成し、そのフォルダ配下に VMware ESXi のインストール CD から以下のファイルをコピーします。

作成したフォルダ名は、「5.1.3 ESXi 5 および ESXi 6 のブートパラメータファイル作成」の手順で必要となるため、記録しておいてください。

- mboot.c32
- menu.c32

注: DeploymentManager と NetvisorPro が同一マシンにインストールされている場合、TFTP サービスが競合し、互いの TFTP サービスが正常に動作しない場合があります。そのような環境での設定については、「DeploymentManager インストレーションガイド」の「付録 F DPM サーバと NetvisorPro V を同一マシン上に構築する」を参照してください。

また、NetvisorPro の TFTP サービスを使用する場合、ファイルのコピー先は NetvisorPro の TFTP ルートフォルダを使用して、DeploymentManager からアクセスできるように設定してください。

1. インストール用ファイルの準備

VMware ESXi のインストールのために「DPM イメージ格納用フォルダ¥exports¥」に任意の名前のフォルダ (本書では以降、「ESXi」として進めます。) を作成し、そのフォルダ配下に VMware ESXi のインストール CD の内容をコピーします。

作成したフォルダ名は、次項「5.1.2 ESXi 5 および ESXi 6 のキックスタート構成ファイルの作成」の手順で必要となるため、記録しておいてください。

5.1.2. ESXi 5 および ESXi 6 のキックスタート構成ファイルの作成

デフォルトのキックスタート構成ファイルについては、VMware 社が発行する「vSphere のインストールとセットアップガイド」を参照して作成します。

関連情報: 詳細については、VMware 社が発行の「vSphere のインストールとセットアップガイド」の「スクリプトを使用した、ホストのインストール、アップグレード、または移行」を参照してください。

1. キックスタート構成ファイルの作成

注:

- ・ ファイルの保存時には改行コードが Linux 改行コード (LF) のみとなるように注意してください。

メモ帳やワードパッドなどの Windows 標準のエディタでは、ファイル保存時に自動的に改行コードが Windows 改行コード (CR+LF) に変換されます。

- ・ DeploymentManager からシナリオを実行する場合は、作成したキックスタート構成ファイルの内容は変更されません。

- ・ SigmaSystemCenter からシナリオを実行する場合は、rootpw / network コマンドに指定した値が置換されます。

下記の内容のファイルを作成します。

各コマンドは改行せず、1 行で記載してください。

```
# Accept the VMware End User License Agreement
vmaccepteula

# Set the root password for the DCUI and Tech Support Mode
rootpw --iscrypted mypassword

# Choose the first discovered disk to install onto
install --firstdisk --overwritevmfs

# Set the network to DHCP on the first network adapter
network --bootproto=static --ip=192.168.1.1 --hostname=localhost.localdomain
--netmask=255.255.255.0 --gateway=192.168.1.1 --nameserver=192.168.1.1
--device=vmnic0 --addvmportgroup=false

# Reboot after installation
reboot --noeject
```

- ・ vmaccepteula
ESXi の使用許諾契約書に同意します。

- **rootpw**
root アカウントのパスワードを設定します。--iscrypted を指定して、暗号化したパスワードを指定します。
SigmaSystemCenter からシナリオを実行する場合は、指定したパスワードはスクリプトインストール時に置換されます。
- **install**
ESXi をインストールするディスクを指定するコマンドです。
- **network**
ネットワークの設定をします。
静的 IP アドレス、ホスト名、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバを指定します。
SigmaSystemCenter からシナリオを実行する場合は、指定した値はスクリプトインストール時に置換されます。
- **reboot**
スクリプトインストール後に再起動をします。

2. 作成した ESXi のキックスタート構成ファイルを IIS サーバ上へコピー

DPM が使用する IIS サーバ上の配置ディレクトリ (DPM イメージ格納用フォルダ %exports%ks) に、作成した ESXi のキックスタート構成ファイル (本書では以降、「esxi.cfg」として進めます。) をコピーします。

コピーしたファイルのパス、およびファイル名は、「5.1.4 ESXi 5 および ESXi 6 の boot.cfg ファイル作成」の手順で必要となるため、記録しておいてください。

5.1.3. ESXi 5 および ESXi 6 のブートパラメータファイル作成

1. ESXi のブートパラメータファイル作成

vi などのテキストエディタか、改行コードを Linux 改行コード (LF) として保存できるエディタを使用して、以下の内容のファイルを作成します。

注: ファイルの保存時には、改行コードが Linux 改行コード (LF) のみとなるように注意してください。

メモ帳やワードパッドなどの Windows 標準のエディタでは、ファイル保存時に自動的に改行コードが Windows 改行コード (CR+LF) に変換されます。

```

DEFAULT /gpmlinux/ESXi_PXEBOOT/menu.c32
MENU TITLE ESXi-5.0.0-381646-standard Boot Menu
NOHALT 1
PROMPT 0
  
```

(1) (2)


```
TIMEOUT 10
LABEL install
    KERNEL /gpxelinux/ESXi_PXEBOOT/mboot.c32
    APPEND -c /gpxelinux/ESXi_PXEBOOT/boot.cfg
    MENU LABEL ESXi-5.0.0-381646-standard ^Installer
```

- (1) 「5.1.1 DPMのセットアップ」の手順1「PXEブート用ファイルの準備」で作成したフォルダ名を指定します。
- (2) インストーラで表示される文字列を指定します。ESXのバージョンやビルド番号などの表示を指定できますが、スクリプトインストールには使用しません。

2. 作成したブートパラメータファイルを DPM の所定のフォルダへコピー

注: ファイル名は拡張子無しで保存します。

編集したブートパラメータファイルを「DPM イメージ格納用フォルダ¥AnsFile¥linux¥」フォルダに保存します。(本書では以降、上記ファイルを「esxi_boot」として進めます。)

注: このフォルダに保存したファイルが、「5.1.5 DPM に OS インストールシナリオ登録」の手順で表示される [ファイル名を指定] のプルダウンボックスに表示されます。

5.1.4. ESXi 5 および ESXi 6 の boot.cfg ファイル作成

1. boot.cfg ファイルの作成

vi などのテキストエディタか、改行コードを Linux 改行コード (LF) として保存できるエディタを使用して、以下の内容のファイルを作成します。

ESXi のインストール CD に格納されている boot.cfg ファイルをコピーし、下記の内容を編集します。boot.cfg ファイルにはインストールに必要なモジュールが記載されており、バージョンごとに異なるため、必ずプロビジョニングを行うインストール CD に格納されている boot.cfg ファイルを使用してください。

- prefix オプションが存在しない場合は追記、存在する場合は変更して、ESXi のインストールするバイナリを公開している URL を指定します
- kernelopt オプションが存在しない場合は追記、存在する場合は変更して、キックスタータ構成ファイルを指定します。
- 記載済みのモジュールの指定をモジュール名のみに変更します。
"/" を削除します。

削除の例)

1. kernel=/tboot.b00

↓

kernel=tboot.b00

2. modules=/b.b00 --- /useropts.gz --- /k.b00 --- (以下、略)

↓

modules=b.b00 --- useropts.gz --- k.b00 --- (以下、略)

注: ファイルの保存時には、改行コードがLinux改行コード (LF) のみとなるように注意してください。

メモ帳やワードパッドなどの Windows 標準のエディタでは、ファイル保存時に自動的に改行コードが Windows 改行コード (CR+LF) に変換されます。

- VMware 社の ESXi5 インストール CD から作成した boot.cfg ファイル

このサンプルは ESXi5.5 を基に作成した boot.cfg ファイルになります。ESXi5.5 以外では使用できません。

```
bootstate=0
title>Loading ESXi installer
prefix=http://192.168.0.1/exports/ESXi
kernel=tboot.b00
kernelopt=ks=http://192.168.0.1/exports/ks/esxi.cfg
modules=b.b00 --- jumpstrt.gz --- useropts.gz --- k.b00 --- chardevs.b00 --- a.b00 --- user.b00
--- sb.v00 --- s.v00 --- ata_pata.v00 --- ata_pata.v01 --- ata_pata.v02 --- ata_pata.v03 ---
ata_pata.v04 --- ata_pata.v05 --- ata_pata.v06 --- ata_pata.v07 --- block_cc.v00 ---
ehci_ehc.v00 --- elxnet.v00 --- weaselin.t00 --- esx_dvfi.v00 --- xlibs.v00 --- ima_qla4.v00 ---
ipmi_ipm.v00 --- ipmi_ipm.v01 --- ipmi_ipm.v02 --- lpfc.v00 --- lsi_mr3.v00 --- lsi_msgp.v00 ---
misc_cni.v00 --- misc_dri.v00 --- mtip32xx.v00 --- net_be2n.v00 --- net_bnx2.v00 ---
net_bnx2.v01 --- net_cnic.v00 --- net_e100.v00 --- net_e100.v01 --- net_enic.v00 ---
net_forc.v00 --- net_igb.v00 --- net_ixgb.v00 --- net_mlx4.v00 --- net_mlx4.v01 ---
net_nx_n.v00 --- net_tg3.v00 --- net_vmxn.v00 --- ohci_usb.v00 --- qlnative.v00 --- rste.v00 ---
sata_ahc.v00 --- sata_ata.v00 --- sata_sat.v00 --- sata_sat.v01 --- sata_sat.v02 ---
sata_sat.v03 --- sata_sat.v04 --- scsi_aac.v00 --- scsi_adp.v00 --- scsi_aic.v00 ---
scsi_bnx.v00 --- scsi_bnx.v01 --- scsi_fni.v00 --- scsi_hps.v00 --- scsi_ips.v00 --- scsi_lpf.v00
--- scsi_meg.v00 --- scsi_meg.v01 --- scsi_meg.v02 --- scsi_mpt.v00 --- scsi_mpt.v01 ---
scsi_mpt.v02 --- scsi_qla.v00 --- scsi_qla.v01 --- uhci_usb.v00 --- tools.t00 --- xorg.v00 ---
imgdb.tgz --- imgpayld.tgz
```

- (1) IISサーバのIPアドレスを指定します。
- (2) 「5.1.1 DPMのセットアップ」の手順2「インストール用ファイルの準備」で作成したフォルダ名を指定します。
- (3) 「5.1.2 ESXi 5およびESXi 6のキックスタート構成ファイルの作成」で作成したキックスタート構成ファイルのファイル名を指定します。

- NEC Custom Image の ESXi5 インストール CD から作成した boot.cfg ファイル

```

bootstate=0
title>Loading ESXi installer
prefix=http://192.168.0.1/exports/ESXi
kernel=tboot.b00
kernelopt=ks=http://192.168.0.1/exports/ks/esxi.cfg
modules=b.b00 --- jumpstrt.gz --- useropts.gz --- k.b00 --- chardevs.b00 --- a.b00 --- user.b00
--- sb.v00 --- s.v00 --- misc_cni.v00 --- net_bnx2.v00 --- net_bnx2.v01 --- net_cnic.v00 ---
net_tg3.v00 --- scsi_bnx.v00 --- scsi_bnx.v01 --- ata_pata.v00 --- ata_pata.v01 ---
ata_pata.v02 --- ata_pata.v03 --- ata_pata.v04 --- ata_pata.v05 --- ata_pata.v06 ---
ata_pata.v07 --- block_cc.v00 --- ehci_ehc.v00 --- elxnet.v00 --- weaselint00 --- esx_dvfi.v00
--- xlibs.v00 --- ima_qla4.v00 --- ipmi_ipm.v00 --- ipmi_ipm.v01 --- ipmi_ipm.v02 --- lpfc.v00 ---
lsi_mr3.v00 --- lsi_msgp.v00 --- misc_dri.v00 --- mtip32xx.v00 --- net_be2n.v00 ---
net_e100.v00 --- net_e100.v01 --- net_enic.v00 --- net_forc.v00 --- net_igb.v00 ---
net_ixgb.v00 --- net_mlx4.v00 --- net_mlx4.v01 --- net_nx_n.v00 --- net_vmxn.v00 ---
ohci_usb.v00 --- qlnative.v00 --- rste.v00 --- sata_ahc.v00 --- sata_ata.v00 --- sata_sat.v00 ---
sata_sat.v01 --- sata_sat.v02 --- sata_sat.v03 --- sata_sat.v04 --- scsi_aac.v00 ---
scsi_adp.v00 --- scsi_aic.v00 --- scsi_fni.v00 --- scsi_hps.v00 --- scsi_ips.v00 --- scsi_lpf.v00
--- scsi_meg.v00 --- scsi_meg.v01 --- scsi_meg.v02 --- scsi_mpt.v00 --- scsi_mpt.v01 ---
scsi_mpt.v02 --- scsi_qla.v00 --- scsi_qla.v01 --- uhci_usb.v00 --- tools.t00 --- nec_conf.v00 ---
xorg.v00 --- imgdb.tgz --- imgpayld.tgz

```

- (1) IISサーバのIPアドレスを指定します。
- (2) 「5.1.1 DPMのセットアップ」の手順2「インストール用ファイルの準備」で作成したフォルダ名を指定します。
- (3) 「5.1.2 ESXi 5およびESXi 6のキックスタート構成ファイルの作成」で作成したキックスタート構成ファイルのファイル名を指定します。

- VMware 社の ESXi6 インストール CD から作成した boot.cfg ファイル

このサンプルは ESXi6.5 を基に作成した boot.cfg ファイルになります。ESXi6.5 以外では使用できません。

```

bootstate=0
title>Loading ESXi installer
prefix=http://192.168.0.1/exports/ESXi
kernel=tboot.b00
kernelopt=ks=http://192.168.0.1/exports/ks/esxi.cfg
modules=b.b00 --- jumpstrt.gz --- useropts.gz --- features.gz --- k.b00 --- chardevs.b00 ---
a.b00 --- user.b00 --- uc_intel.b00 --- uc_amd.b00 --- sb.v00 --- s.v00 --- ata_liba.v00 ---
ata_pata.v00 --- ata_pata.v01 --- ata_pata.v02 --- ata_pata.v03 --- ata_pata.v04 ---
ata_pata.v05 --- ata_pata.v06 --- ata_pata.v07 --- block_cc.v00 --- char_ran.v00 ---
ehci_ehc.v00 --- elxnet.v00 --- hid_hid.v00 --- i40en.v00 --- igbn.v00 --- ima_qla4.v00 ---
ipmi_ipm.v00 --- ipmi_ipm.v01 --- ipmi_ipm.v02 --- ixgben.v00 --- lpfc.v00 --- lsi_mr3.v00 ---
lsi_msgp.v00 --- lsi_msgp.v01 --- misc_cni.v00 --- misc_dri.v00 --- mtip32xx.v00 ---
ne1000.v00 --- nenic.v00 --- net_bnx2.v00 --- net_bnx2.v01 --- net_cdc.v00 --- net_cnic.v00
--- net_e100.v00 --- net_e100.v01 --- net_enic.v00 --- net_fcoe.v00 --- net_forc.v00 ---
net_igb.v00 --- net_ixgb.v00 --- net_libf.v00 --- net_mlx4.v00 --- net_mlx4.v01 ---
net_nx_n.v00 --- net_tg3.v00 --- net_usbn.v00 --- net_vmxn.v00 --- nhpsa.v00 ---
nmlx4_co.v00 --- nmlx4_en.v00 --- nmlx4_rd.v00 --- nmlx5_co.v00 --- ntg3.v00 --- nvme.v00
--- nvmxnet3.v00 --- ohci_usb.v00 --- pvscsi.v00 --- qedentv.v00 --- qlf3.v00 --- qlfge.v00 ---
qlnative.v00 --- sata_ahc.v00 --- sata_ata.v00 --- sata_sat.v00 --- sata_sat.v01 ---
sata_sat.v02 --- sata_sat.v03 --- sata_sat.v04 --- scsi_aac.v00 --- scsi_adp.v00 ---
scsi_aic.v00 --- scsi_bnx.v00 --- scsi_bnx.v01 --- scsi_fni.v00 --- scsi_hps.v00 --- scsi_ips.v00
--- scsi_isc.v00 --- scsi_lib.v00 --- scsi_meg.v00 --- scsi_meg.v01 --- scsi_meg.v02 ---
scsi_mpt.v00 --- scsi_mpt.v01 --- scsi_mpt.v02 --- scsi_qla.v00 --- shim_isc.v00 ---
shim_isc.v01 --- shim_lib.v00 --- shim_lib.v01 --- shim_lib.v02 --- shim_lib.v03 --- shim_lib.v04

```

```

--- shim_lib.v05 --- shim_vmk.v00 --- shim_vmk.v01 --- shim_vmk.v02 --- uhci_usb.v00 ---
usb_stor.v00 --- usbcore_.v00 --- vmkata.v00 --- vmkplex.v00 --- vmkusb.v00 ---
vmw_ahci.v00 --- xhci_xhc.v00 --- emulex_e.v00 --- weaselin.t00 --- esx_dvfi.v00 ---
esx_ui.v00 --- lsu_hp_h.v00 --- lsu_lsi_.v00 --- lsu_lsi_.v01 --- lsu_lsi_.v02 --- lsu_lsi_.v03 ---
native_m.v00 --- rste.v00 --- vmware_e.v00 --- vsan.v00 --- vsanheal.v00 --- vsanmgmt.v00 ---
tools.t00 --- xorg.v00 --- imgdb.tgz --- imgpayld.tgz

```

- (1) IISサーバのIPアドレスを指定します。
- (2) 「5.1.1 DPMのセットアップ」の手順2「インストール用ファイルの準備」で作成したフォルダ名を指定します。
- (3) 「5.1.2 ESXi 5およびESXi 6のキックスタート構成ファイルの作成」で作成したキックスタート構成ファイルのファイル名を指定します。

- NEC Custom Image の ESXi6.5 インストール CD から作成した boot.cfg ファイル

```

bootstate=0
title>Loading ESXi installer
prefix=http://192.168.0.1/exports/ESXi
kernel=tboot.b00
kernelopt=ks=http://192.168.0.1/exports/ks/esxi.cfg
modules=b.b00 --- jumpstrt.gz --- useropts.gz --- features.gz --- k.b00 --- chardevs.b00 ---
a.b00 --- user.b00 --- uc_intel.b00 --- uc_amd.b00 --- sb.v00 --- s.v00 --- lsi_mr3.v00 ---
lsi_msgp.v00 --- net_tg3.v00 --- lpfc.v00 --- net_ixgb.v00 --- qfle3.v00 --- misc_cni.v00 ---
net_bnx2.v00 --- net_bnx2.v01 --- net_cnic.v00 --- scsi_bnx.v00 --- scsi_bnx.v01 ---
ata_liba.v00 --- ata_pata.v00 --- ata_pata.v01 --- ata_pata.v02 --- ata_pata.v03 ---
ata_pata.v04 --- ata_pata.v05 --- ata_pata.v06 --- ata_pata.v07 --- block_cc.v00 ---
char_ran.v00 --- ehci_ehc.v00 --- elxnet.v00 --- hid_hid.v00 --- i40en.v00 --- igbn.v00 ---
ima_qla4.v00 --- ipmi_ipm.v00 --- ipmi_ipm.v01 --- ipmi_ipm.v02 --- ixgben.v00 ---
lsi_msgp.v01 --- misc_dri.v00 --- mtip32xx.v00 --- ne1000.v00 --- nenic.v00 --- net_cdc_.v00
--- net_e100.v00 --- net_e100.v01 --- net_enic.v00 --- net_fcoe.v00 --- net_forc.v00 ---
net_igb.v00 --- net_libf.v00 --- net_mlx4.v00 --- net_mlx4.v01 --- net_nx_n.v00 ---
net_usbfn.v00 --- net_vmxn.v00 --- nhpsa.v00 --- nmlx4_co.v00 --- nmlx4_en.v00 ---
nmlx4_rd.v00 --- nmlx5_co.v00 --- ntg3.v00 --- nvme.v00 --- nvmmxnet3.v00 --- ohci_usb.v00 ---
pvscsi.v00 --- qedentv.v00 --- qlfge.v00 --- qlnative.v00 --- sata_ahc.v00 --- sata_ata.v00 ---
sata_sat.v00 --- sata_sat.v01 --- sata_sat.v02 --- sata_sat.v03 --- sata_sat.v04 ---
scsi_aac.v00 --- scsi_adp.v00 --- scsi_aic.v00 --- scsi_fni.v00 --- scsi_hps.v00 --- scsi_ips.v00
--- scsi_isc.v00 --- scsi_lib.v00 --- scsi_meg.v00 --- scsi_meg.v01 --- scsi_meg.v02 ---
scsi_mpt.v00 --- scsi_mpt.v01 --- scsi_mpt.v02 --- scsi_qla.v00 --- shim_isc.v00 ---
shim_isc.v01 --- shim_lib.v00 --- shim_lib.v01 --- shim_lib.v02 --- shim_lib.v03 --- shim_lib.v04
--- shim_lib.v05 --- shim_vmk.v00 --- shim_vmk.v01 --- shim_vmk.v02 --- uhci_usb.v00 ---
usb_stor.v00 --- usbcore_.v00 --- vmkata.v00 --- vmkplex.v00 --- vmkusb.v00 ---
vmw_ahci.v00 --- xhci_xhc.v00 --- emulex_e.v00 --- weaselin.t00 --- esx_dvfi.v00 ---
esx_ui.v00 --- lsu_hp_h.v00 --- lsu_lsi_.v00 --- lsu_lsi_.v01 --- lsu_lsi_.v02 --- lsu_lsi_.v03 ---
native_m.v00 --- rste.v00 --- vmware_e.v00 --- vsan.v00 --- vsanheal.v00 --- vsanmgmt.v00 ---
tools.t00 --- nec_conf.v00 --- xorg.v00 --- imgdb.tgz --- imgpayld.tgz

```

- (1) IISサーバのIPアドレスを指定します。
- (2) 「5.1.1 DPMのセットアップ」の手順2「インストール用ファイルの準備」で作成したフォルダ名を指定します。
- (3) 「5.1.2 ESXi 5およびESXi 6のキックスタート構成ファイルの作成」で作成したキックスタート構成ファイルのファイル名を指定します。

2. boot.cfg ファイルを DPM の所定のフォルダへコピー

作成した boot.cfg ファイルを「5.1.1 DPM のセットアップ」の手順 1「PXE ブート用ファイルの準備」で作成したフォルダ ESXi_PXEBOOT へコピーする。

5.1.5. DPM に OS インストールシナリオ登録

ESXi のブートパラメータファイルを、Linux の OS インストールシナリオとして DPM に登録してください。

1. DPM の Web コンソール上で、タイトルバーの [運用] をクリックして、[運用] ビューに切り替えます。ツリービュー上で、[リソース] - [シナリオ] - [シナリオ追加するシナリオグループ] をクリックします。
2. [シナリオ] に対する [設定] メニューが表示されますので、[シナリオ追加] をクリックします。メインウィンドウに「シナリオ追加」が表示されますので、[OS] タブを選択します。
3. [OS 名] プルダウンボックスから [Linux(gPXE)] を選択します。
4. [セットアップパラメータファイル] グループボックスの [ファイル名を指定] をオンにし、プルダウンボックスから、「5.1.3 ESXi 5 および ESXi 6 のブートパラメータファイル作成」の手順 2「作成したブートパラメータファイルを DPM の所定のフォルダへコピー」で保存したファイル名を選択します。

シナリオ追加

グループ名: ESX

シナリオ名: ESXi

HW設定 **OS** パッケージ バックアップ/リストア オプション

OS

OS名: Linux(gPXE)

OS種別: Linux

セットアップパラメータファイル

☐ マシン名で割り当てる

☒ ファイル名を指定: esxi_boot

OK キャンセル

5. シナリオ実行動作設定に [シナリオ終了時に対象マシンの電源を OFF にする] チェックボックスをオンにしてください。

シナリオ追加

グループ名: ESX

シナリオ名: ESXI

HW設定 OS パッケージ バックアップ/リストア オプション

シナリオ実行動作設定

☐ シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する

☒ シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする

⚠️ ディスク複製OSインストールを目的としてリストアを行う場合は、本項目を指定しないでください。

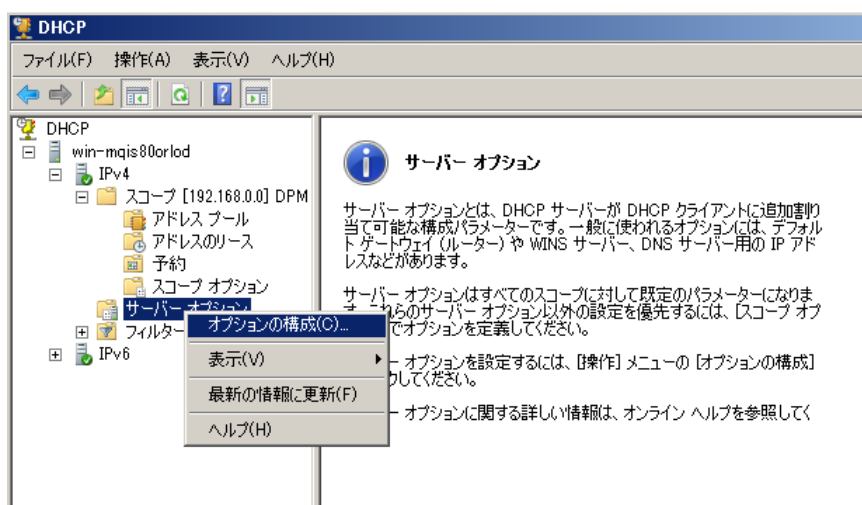
OK キャンセル

以上で DPM の OS インストールシナリオ登録は完了です。

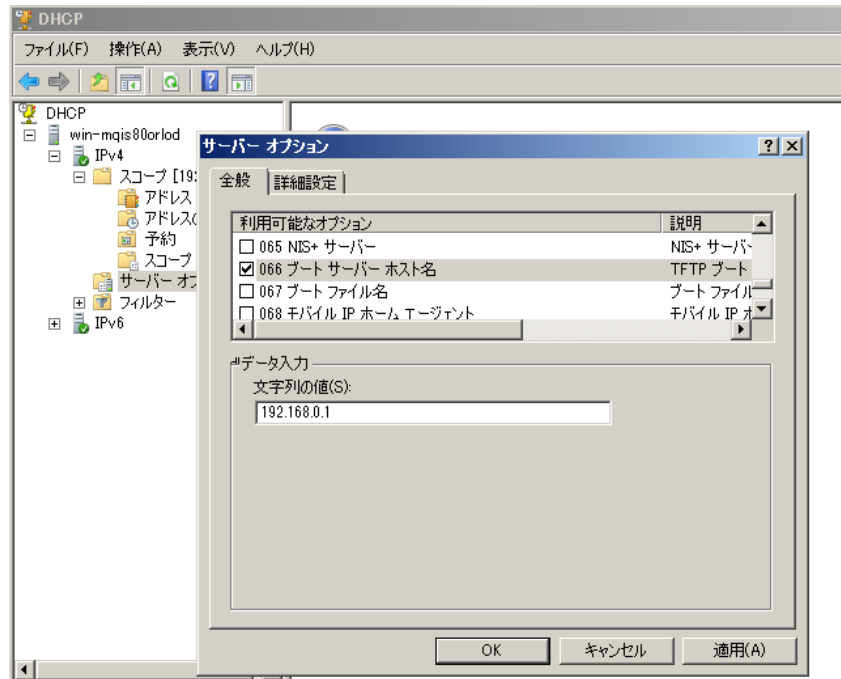
5.1.6. DHCP サーバ / DPM サーバ別居の場合の設定

DHCP サーバを DPM サーバとは別マシンに構築している場合やクラスタ構成など DPM の詳細設定で DHCP サーバを別居設定にしている場合、DHCP サーバに対してオプション 66,67 の設定が必要です。以下の手順に従って設定してください。

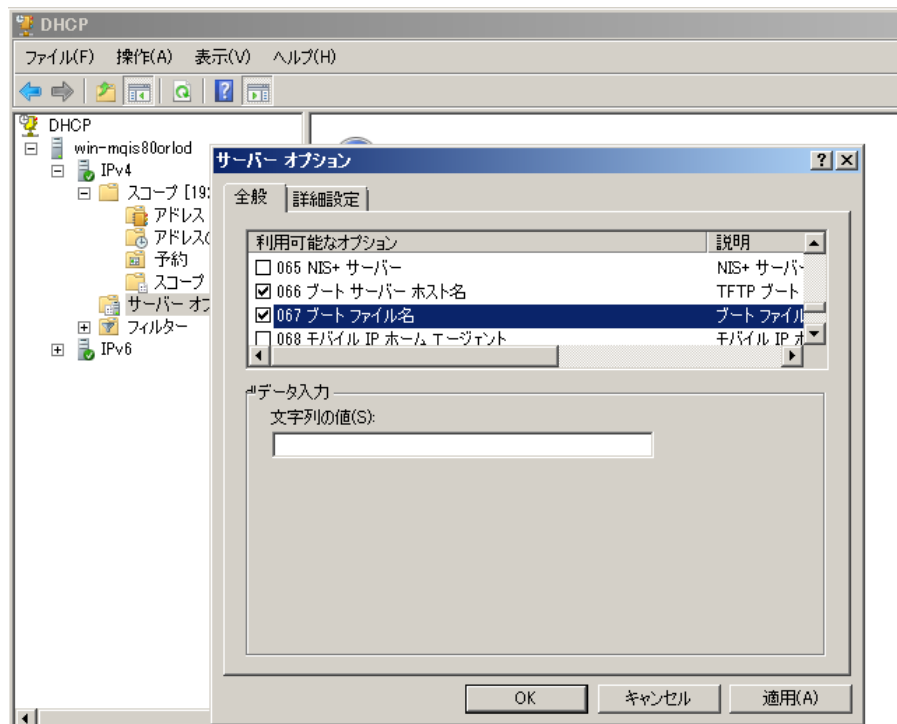
1. Windows Server 2008 R2 の場合は、[スタート] メニューから [プログラム] – [管理ツール] – [DHCP] を開きます。Windows Server 2012 以降の場合は、サーバーマネージャから[ツール] – [DHCP] を開きます。
2. [サーバー オプション] を右クリックして、[オプションの構成(C)] を選択します。



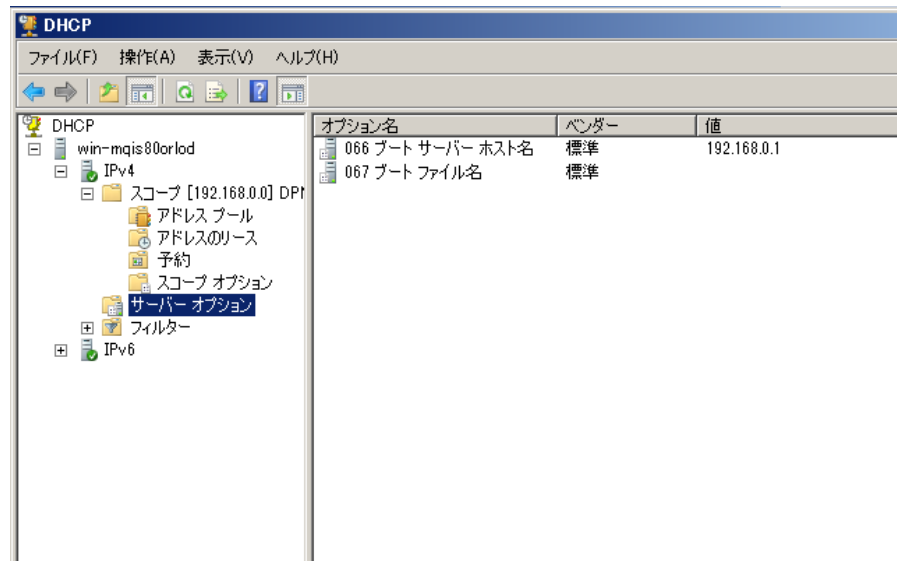
3. 「サーバー オプション」画面の [全般] タブで [066 ブート サーバー ホスト名] チェックボックスをオンにし、[文字列の値(S)] に DPM サーバの IP アドレスを入力します。



4. 「サーバー オプション」画面の [全般] タブで [067 ブート ファイル名] チェックボックスをオンにします。[文字列の値(S)] の入力是不要です。



5. [OK] をクリックします。



以上で DHCP サーバの設定は完了です。

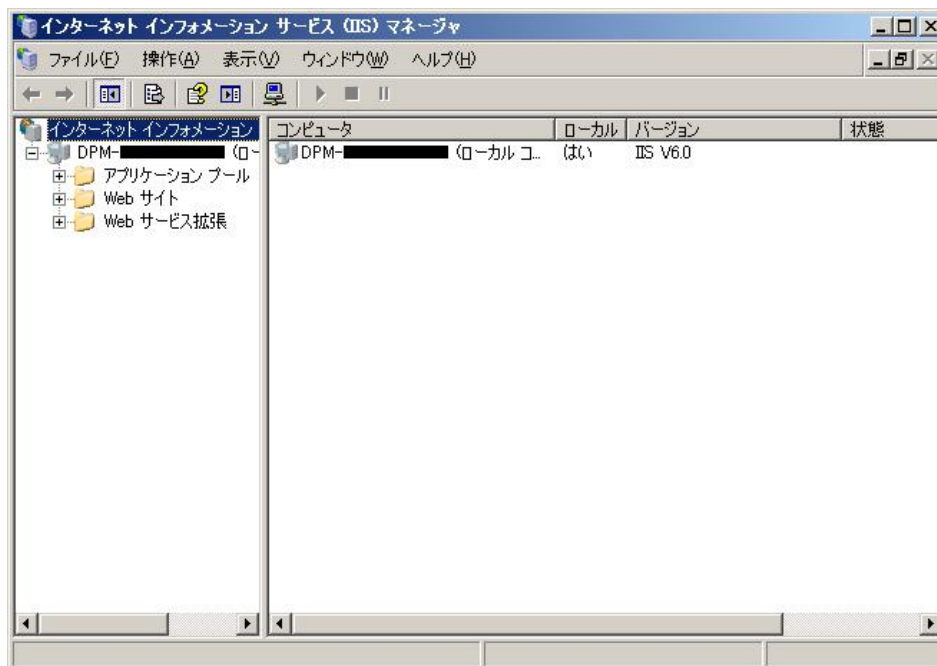
サーバー オプション 66,67 は自動インストールでのみ必要な設定のため、実施後は削除しても構いません。

6. IIS 構築

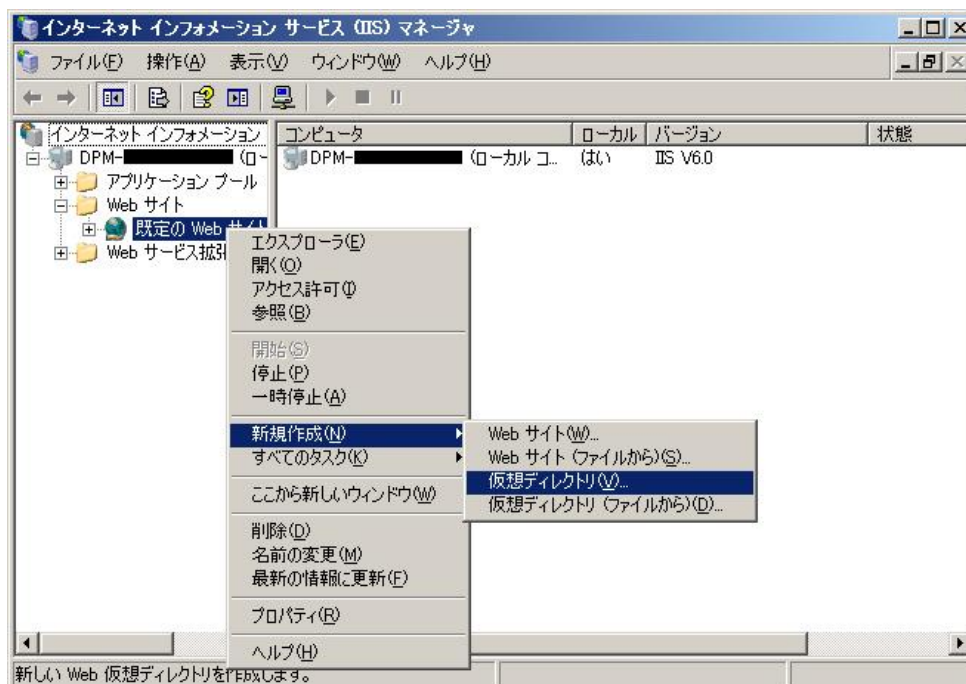
ESXi 5 および ESXi 6 のスクリプトインストールを行う場合に IIS サーバが必要になります。
以下の手順に従って DPM サーバの NFS 共有フォルダを IIS サーバで公開するようにしてください。

6.1.1. IIS6 の場合

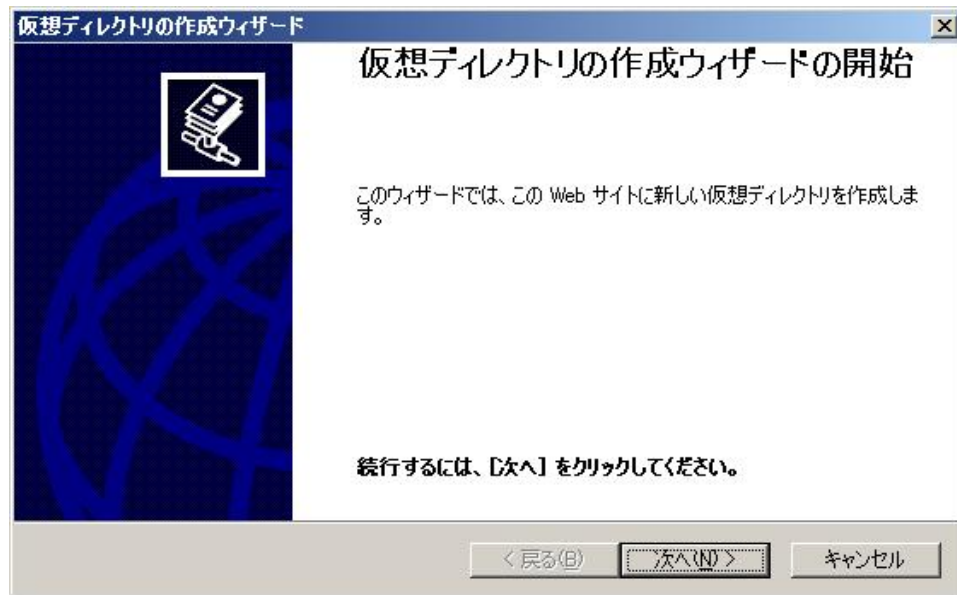
1. [スタート] メニューから [プログラム] - [管理ツール] - [インターネット インフォメーション サービス(IIS) マネージャ] を選択し、IIS を起動します。



2. 左側のツリーで[Web サイト] - [既定の Web サイト] を選択して、右クリックして、[新規作成(N)] - [仮想ディレクトリ(V)] を選択します。



3. 「Web サイトの作成ウィザード」画面が表示されます。[次へ(N)] をクリックします。



4. 「exports」を入力し、[次へ(N)] をクリックします。



5. ホームディレクトリのパスは、<DPM イメージ格納用フォルダ¥exports>を指定します。
[次へ(N)] をクリックします。

仮想ディレクトリの作成ウィザード

Web サイトのコンテンツのディレクトリ
Web サイト上で発行するコンテンツがある場所を指定してください。

この Web サイトのコンテンツを含むディレクトリのパスを入力してください。

パス(P):
¥Deploy¥exports

参照(R)...

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

6. Web サイトのアクセス許可について、[読み取り(R)] と [参照(Q)] チェックボックスをオンにします。

仮想ディレクトリの作成ウィザード

仮想ディレクトリのアクセス許可
この仮想ディレクトリにアクセス許可を設定します。

次のアクセス許可を与える:

☒ 読み取り(R)

☐ ASP などのスクリプトを実行する(S)

☐ ISAPI アプリケーションや CGI などを実行する(E)

☐ 書き込み(W)

☒ 参照(Q)

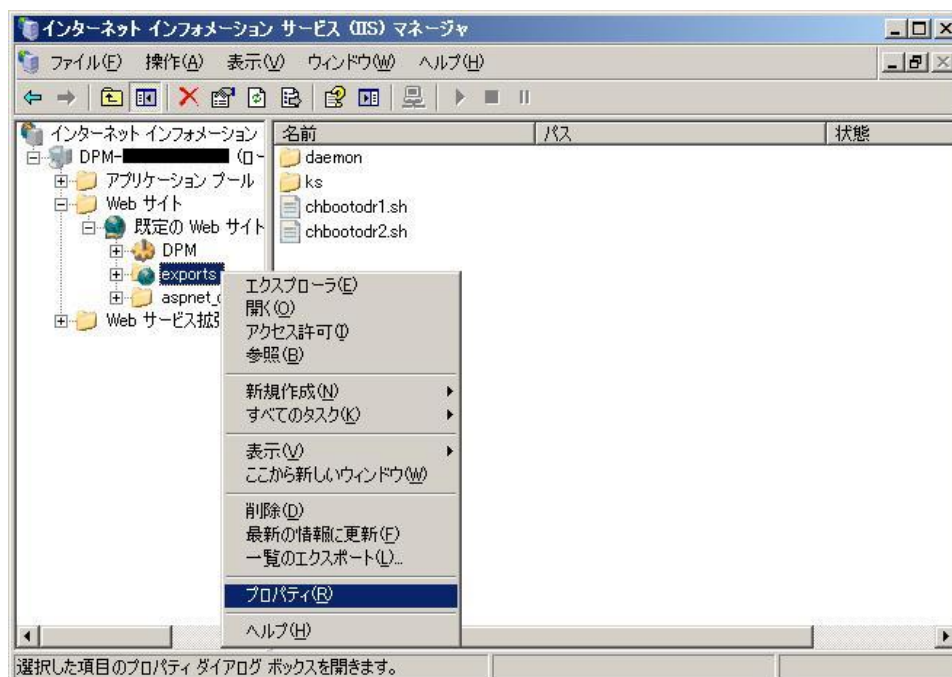
【次へ】をクリックしてウィザードを完了します。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

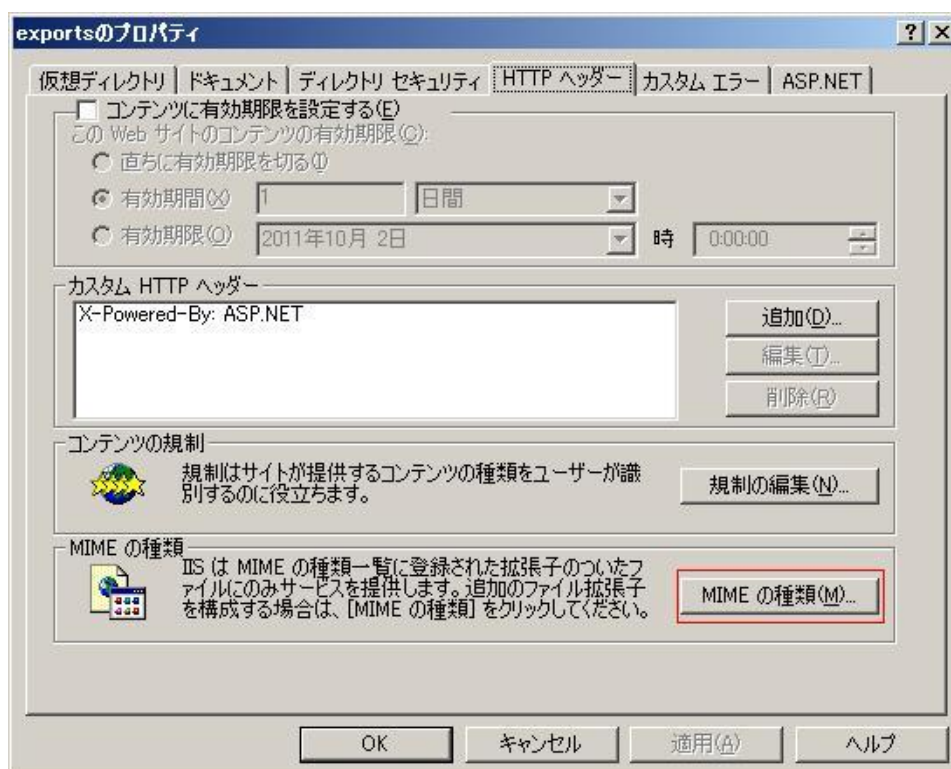
7. [完了] をクリックします。



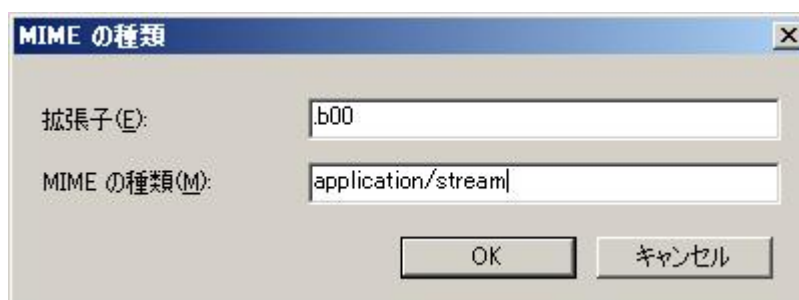
8. 作成された exports (仮想ディレクトリ) を選択して、右クリックから [プロパティ(R)] を選択します。



9. [HTTP ヘッダー] タブから、[MIME の種類(M)] を選択します。



10. 表示される画面から、「新規作成」を選択して、下記の「MIME の種類」画面を表示します。

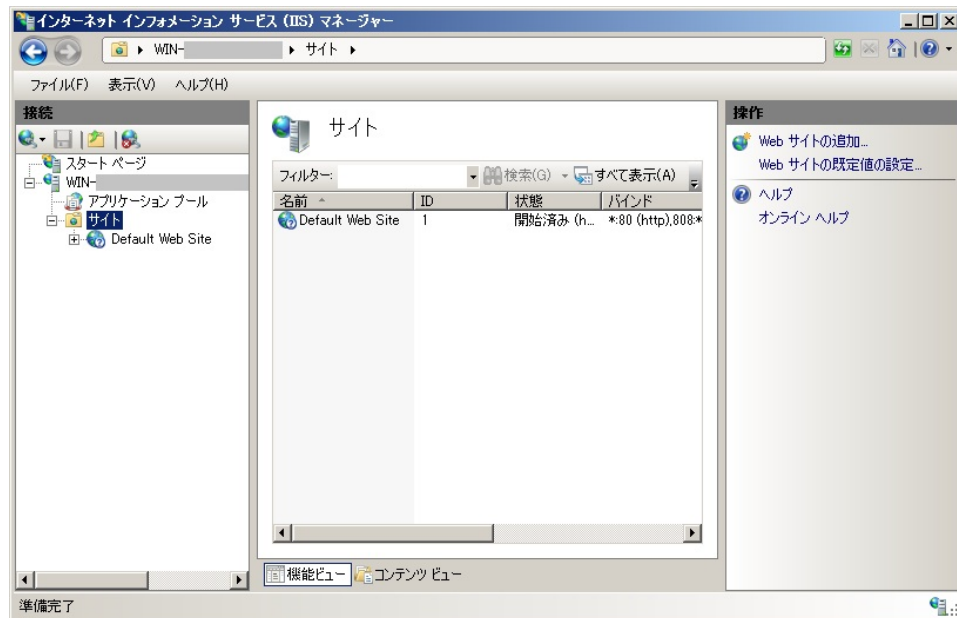


下記のそれぞれの拡張子に対して、MIME の種類に「application/stream」を設定してください。

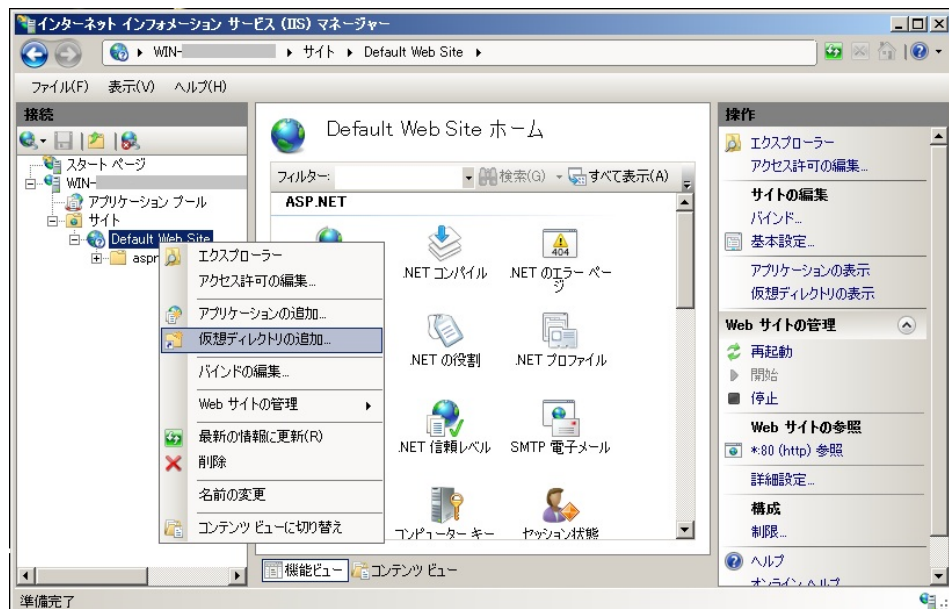
.b00、.cfg、.gz、.i00、.t00、.tgz、.v00
.v01、.v02、.v03、.v04、.v05、.v06、.v07

6.1.2. IIS7 以降の場合

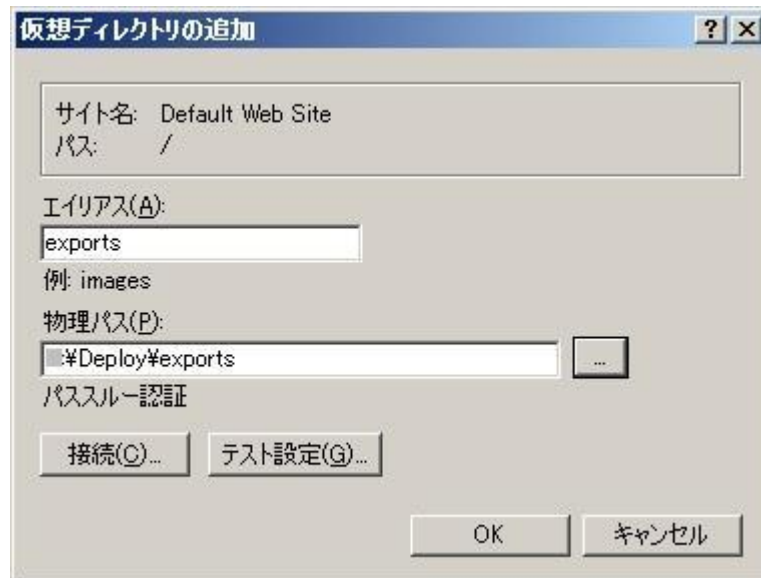
1. [スタート] メニューから [プログラム] – [管理ツール] – [インターネット インフォメーション サービス(IIS) マネージャ] を選択し、下記の画面を表示します。



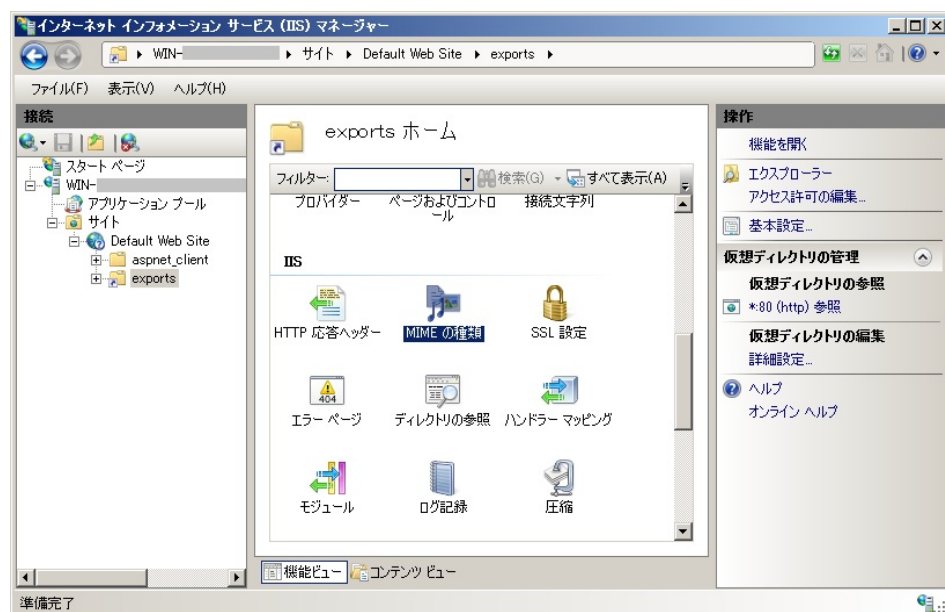
2. 左側のツリーで [サイト] – [Default Web Site] を選択して、右クリックから [仮想ディレクトリの追加] を選択します。



3. 「仮想ディレクトリの追加」ダイアログが表示されます。[エイリアス(A)] テキストボックスに「exports」を入力し、[物理パス(P)] テキストボックスに「<DPM イメージ格納用フォルダ\exports>と指定し、[OK] をクリックします。



4. 「exports ホーム」画面に「MIME の種類」のアイコンを選択し、右側の画面で「機能を開く」をクリックします。



5. 右側の画面での「追加...」をクリックして、表示される「MIME の種類の追加」ダイアログから [ファイル名の拡張子(E)] と [MIME の種類(M)] テキストボックスを入力してください。

設定内容は「6.1.1 IIS6 の場合」の手順 10 を参照してください。

